

平成26年9月12日(4)

開議 10時00分

○議長 磯永優二君

皆さん、おはようございます。只今の出席議員は、13名であります。

それでは、これより、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問3日目を行います。順次、質問を許可します。

豊明会の一般質問を、只今より行います。はじめに、平田精一議員。

○2番 平田精一君

おはようございます。一般質問最終日、豊明会トップバッターで質問させていただきます平田です。どうぞよろしく申し上げます。

1番目の質問として、先日、宮田議員のほうから質問がありましたように、保育制度が段々変わろうとしています。子ども・子育て支援制度という、これは消費税アップによるものだと思いますが、内閣府から出されている中で、消費税分の0.7兆円分を含め、その内10%になるだろう、なった場合に1兆円もの予算が福祉に使われる見込みだとなっていますが、その中で、子ども・子育て支援の中で、今後どこが主体になっていくかというところ、地方自治体なんですね。例えば豊前市の保育園だったら豊前市だろうと思います。その中で、昨年4月に設置された子ども・子育て会議について、お伺いしたいと思います。

豊前市の今の状況は、どんなふうになっているのでしょうか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

おはようございます。子ども・子育て会議の進捗状況につきまして、お答えをさせていただきます。

豊前市は、第1回目を5月に開催をいたしまして、現在までに6回の会議が開催されてございます。今後、計画の策定に向けて、あと数回を予定させていただいているという状況でございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

内閣府の中で、子ども・子育て支援法が変わる中で、実際に都市部には待機児童が沢山おるわけですね。きのうの質問の中にありましたように、豊前市の中では待機児童がいない。豊前市が一番考えなくちゃいけないのが、子どもの数が減少傾向にある地域だと思うんです。どんどん子どもが減っていく中で、今後どういう子育て支援をやっていくのか。どう考えられていますか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

1つ大きな問題といたしまして、議員さんがお尋ねになりました少子化対策ということが大きくあろうかと思えます。少子化対策につきましては、福祉課のみでなく、全庁的に会議を立ち上げて検討させていただいているところでございます。

その中で、今回の子ども・子育て支援事業計画、平成27年度以降の子育て支援を、どのように行っていくかという、大きなこの基本的な方針を、この子ども・子育て会議の中で議論させていただき、子ども・子育て支援事業計画の中に、その基本方針、あるいは具体的な方策を盛り込んでいくということになってございますので、現在、そういった基本理念、基本方針、具体的な推進体制等を含めて、検討中ということでございますので、計画につきましては、議会議決案件となっておりますので、その中でしっかりと説明をさせていただきたいと考えてございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

この制度で新しく出ているのが、認定こども園という制度が出てきています。豊前市の中で、他の市町村のときに結構、幼稚園と保育所の関連があるんですけど、豊前市は幼稚園が1園しかないんですよ。その中で、幼稚園側としては、どういう意見を持っているのでしょうか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

昨日も若干、関連するようなところを、ご答弁させていただいたところなんですけれども、1つは、事業所がどういうふうにかえるかということになろうかと思えます。

新制度の対象となるべき施設に移行するのかどうかというところです。それは、1つは、国が示しますところの公定価格、あるいは市のほうが定めます確認の基準等、これらを総合的に勘案して各事業所さんがどうするのか、というご判断をされるかと思っております。それと後は市、行政として、どうやって整備を行っていくのかということになります。

事業所のほうも今後、具体的な検討、決定になろうかと思えますし、市のほうも今回、条例案の上程をさせていただいている状況ですし、まだ会議のほうも現在、進行中でございますので、そこのところの27年度以降、どういうふうな姿になるのかというところは、現状では、ちょっとお答えが出来かねる状況でございますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

この新制度ですね、もう来年27年4月から開始だと思いますよ。ホームページなんか見ていると、当初、最初、この制度に入っても、悪かったら途中で止めて良いよという制度みたいなんですよ。決定して、それをずっとそのまま続ける制度ではないみたいなんです。保育所とか事業所自体が一番心配しているのが、やはり恒久財源なんですね。

いま保育所あたりは普通に補助金が来て、運営に何ら障害がないんですけど、もしかしたら個人契約になるんじゃないか。そこのところを心配しているんだと思います。

今まで、定員が60人、80人、100人おれば、それなりの補助金が来ていたと。今度こういう幼保一元化の中で子ども園か何かにすると、結局、直接契約、そのお母さんと話して、4時間預かりますから、8時間預かりますから、例えば月何万円で契約しませんかという契約パターンに段々変わっていくのではないかという、一番心配があるみたいですが、そういう意見はなかったんですか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

1つは、国におきます恒久的な財源の確保というところが大前提にあらうかと思われます。これにつきましても、宮田議員さんのほうからご質問をいただいて、本当に財源の確保が大丈夫なのかというところ、国の動向等、分りませんかというふうなご質問がございました。ただ、それに関しましては、現在、最初に平田議員さんが言われたように、消費増税分の7000億円程度の財源確保と、その他で1兆円超の財源確保によって、新制度を遂行していきますというところからで、国からの情報が来ているところでございまして、それ以上の情報については来ておりません。

それと、あともう1つ、1つひとつの事業所について、しっかりと安定した運営ができるのかどうかというところは、1つは、まず入り口であるところの認可というところで、その辺の判断もされようかと思えますし、市のほうに権限がございませ確認というところでも、その辺しっかりとした運営ができるのかというところを判断させていただきたいと考えてございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

さっき課長が言うたように、本当に今後、市町村の役割が相当大事になってくるんですね。今まで国・県が主体でやっていたことを、豊前市が今度引っ張っていかなくちゃいけ

ない、相談しながらですね。内閣府の中で、政府の推進体制というのがあるんですけど、ここに今まで、先日も宮田議員のほうからありましたように、保育所は、文科省と厚生労働省ですね、2省にわたってやっているわけなんですけど、政府の推進体制ですね、制度ごとにバラバラな政府の推進体制を整備し、内閣府に子ども・子育て本部を設置しますとあるんですね。ここのところを、いま事業所をやっている方の意見を聞くと、ここで一本化して大丈夫なのか。厚生労働省のほうが、どうしても福祉なんで予算的に付きやすい。文科省のほうは、いわゆる大学から大学院から専門学校から、高校から中学、小学校、そして幼稚園と下りてくるから、今までは補助金というのは殆ど少なかったわけなんですけど、これが一本化することによって、いわゆる補助が減ってくるのではないかという心配があるみたいなんですけど、こういう話しは聞いてないでしょうか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

27年度以降の制度の中では、給付制度というものが導入されておりまして、その給付の対象となる施設について、市町村が給付費を支給していくという制度になっております。このもとになりますのが公定価格と申しまして、国から告示されるものになってございますけれども、その確定は27年4月1日以降と申しますか、4月1日から本格的にというか、確定的に成立するということになってございますので、現在、そのある程度の基準というところが、ホームページ上等には公表されておりまして、それで各事業所なりが、どういふふうになるのかというふうな判断はされているかと思えますし、市のほうが今後、保育料等の設定をするに際しましても、そういったところを考慮して、そこを基準にどうするかというところを判断していくことになっていきますけれども、それが高いのか安いのかというようなところは、まだ私どもの耳には届いておりません。ただ国の設定では、現行の保育所、幼稚園の経費と相当で定めておるということで聞いております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

きのうも宮田議員のほうから質問があったように、子ども・子育て会議の中で、何人くらい、16名と言われましたか。その中で、どういう団体のほうから入っているのか。勿論、事業所のほうから入っているでしょうけれども、労働者代表とかですね、地方公共団体とかですね、いわゆる親御さんの意見もあるだろうし、どういう人員でやられているんですか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

**○福祉課長 藤井郁君**

役職と申しますか、その範囲というところで、お答えさせていただきますと、保育と、あと幼稚園の関係者、それと保育士の代表者、小学校校長会、PTA連合会、子ども会連合会、医師会、それと障害者福祉に携わる団体、民生委員協議会、児童相談所と保護者代表等となっております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

いろんな分野から参加してもらっているの、大丈夫だと思いますけど、今後ですね、さっきも言ったように、いわゆる自治体が引っ張っていかなくちゃいけない。努力しないと他市町村との格差が出る可能性だってあります。中津とか京築、いろんな地域がありますが、子育てしやすい豊前市にしないと、なおさら豊前市から離れていく。いわゆる豊前市にいま3歳児は保育所が無料になっています。きのうも医療の話がありました。

そういうサービスも良いでしょうけど、しっかりした子どもを育てる事業所をつくりあげることが、豊前市の人口減少に歯止めを掛けることだと思っていますので、しっかりやっていただきたいなと思っています。

続いて学童保育について、お伺いしたいと思います。

さっきも子ども・子育て支援制度の中にも、やっぱり放課後児童クラブというのが入っています。地域の実績に応じた子ども・子育て支援ということですね。これは、私は他市町村で聞いたんですけど、放課後児童クラブをやる上において、そこはその保育所が任されているわけですけど、実際に使おうと思ったら、教育委員会と福祉のほうと、とっても仲が悪いと。実際そこを使わせてもらおうと思ったら教育委員会のほうから拒否されたりするらしいんですね。

豊前市の中では、いま並んで座られていますけど、どういう状況なんでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

福祉課長、答弁。

**○福祉課長 藤井郁君**

豊前市におきます状況をご答弁させていただきます。

各小学校に設置をしてございます放課後児童クラブ、9クラブの内、3クラブについては、学校の教室を使用させていただいております。学校内の施設を使うということになりますと、学校側と、その管理等については、十分な当然、協議が必要になってまいります。3クラブとも、随時必要に応じて両方で協議をさせていただいているという状況です。

またその他、現在、障がいをお持ちの児童の方も通っていらっしゃいますので、そういったケースにつきましても、学校の養護教諭の方等と連携を図って、児童の安全、適切な

保育の確保を最優先するという立場をとらせてもらっております。

榎本議員さんのほうからもご指摘を受けて、しっかり連携してやるようにというふうに言われておりますので、当然そこを肝に命じて、今後も福祉課、学校教育課というふうな壁をなくして、双方が豊前市の児童のために、一生懸命手を取り合ってやっていくんだというふうな認識で頑張っていきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

さっき、こういう質問をすると、教育長が不審そうな顔で私を見ましたけど違うんですよ。豊前市のことを言っているわけじゃなくて、よその市町村で、そういう実例があるので、教育長、豊前市ではありませんでしょうか。

○議長 磯永優二君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

前回、6月議会のときに、皆さんと一緒に、この学童保育の関連で学校施設の見学に行っていたきました。見ていただいたとおり、それぞれの学校でできる学童保育は、学校で設置しておりますし、できておりますし、またどうしても空き教室がないという所での地域においては、他の施設を借用していると。できるだけ私も学校で放課後なり、学校で学童保育ができれば良いなと思っておりますし、特に学校教育がそれを反対するとかいうようなことは、一切考えておりません。見ていただいたとおりです。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

ありがとうございます。豊前市はそういうことがない、真剣に子育てを取り組んでいることが分かりましたので、なお一層頑張っていたきたいなと思っています。

次に、学童なんですけど、実際、豊前市として、小学校3年生までをいま預かっている。合河は、ちょっと高学年まで預かっているんですかね。実際、アンケートを取られたんじゃないかなと思うんですよ。高学年になっても、小学校5年生、6年生あたりも犯罪に巻き込まれて誘拐されたり事件があっていますから、親御さんは夜遅くまで働く。その結果はどうだったのか出てないんですか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 藤井郁君

議員さんおっしゃいますとおり、2学期以降の学年の延長というところを予定をさせて

もらって、そのためにアンケートを取らせていただきました。

その結果、ちょっといま手元にその結果のほうの数値を持っていなくて、はっきりとした数値は申し上げられないんですけども、結果のほうは出ております。ただ若干私どもが予想した以上の数があがっております。ただ今回取らせていただいたのは、第一段階と申しますか、親御さんのご希望というところでアンケートを取らせていただきました。再度、子どもさんも含めたところで、実際の数字というところで再度確認作業を取らせてもらおうと予定にしているところです。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

課長の言うとおりでと思います。親の意見ばかりじゃないで、子どもにやはり3年生が終わって、ホッとする子もいるみたいです。やはり学校が終わって、また拘束されるというイメージが相当あるみたいです。子ども達が自由に遊べない。だからそのところ、十分、子どもと親と調整しながらやっていただきたいなと思っています。

それでは、次の質問に移りたいと思います。

豊前市、全国どこでもですが、高齢化社会になっています。高齢化社会の中で、私が市民のほうから聞いたのが、高齢者にとって、いま屋外でスポーツと言えば、昔はゲートボールだったんですね。ゲートボールが盛んなときは、ゲートボール場が整備されていたと思います。ただゲートボールも喧嘩になったりとか、他人のせいにしたったりとか、いろいろあって段々衰退してきています。

いま流行っているのがグラウンドゴルフなんですね。いま豊前市の中で、グラウンドゴルフのチームというか、参加人数、楽しんでいる人はどのくらいいるのでしょうか。

○議長 磯永優二君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

おはようございます。グラウンドゴルフの市内の人口ということでのご質問ですけども、正確な数字は、こちらのほうでは把握しておりませんが、約2000人くらいがグラウンドゴルフを楽しんで競技をされているというふうに聞いております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

2000人以上楽しんでいるのに、実際、専用グラウンドゴルフ場というのは豊前市の中にはないと思います。パークゴルフ場というのがあるみたいですけど。パークゴルフ場はあるけど距離が遠い。工業地帯にあるのでですね。自分たちの近くに場所をつくること

によって、市長の言う生涯現役社会。高齢者がどんどん家に閉じこもることなく、皆が集まることによって、コミュニケーションも増えていくだろうと思います。今後、グラウンドゴルフ場の整備のほうは考えてないのでしょうか。

○議長 磯永優二君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

グラウンドゴルフ専用の整備というふうには、なかなか難しい面もあるかと思いますが、グラウンドゴルフをするに当たりまして、岩屋の活性化センターとか、南部多目的グラウンド、合河の公民館グラウンド、市内でも高齢者が安心して出来るような多目的なグラウンド整備という面では、今後検討していきたいというふうに考えております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

グラウンドゴルフで、豊前市の中で、いわゆるト仙の郷、天狗の湯、畑の冷泉、いわゆる観光地がありますよね。実績としては今なかなか業績が悪いという話を聞いています。ト仙もなかなか客足が少ないようですし、畑の冷泉は、今年は特に冷夏のために、早めに閉じなくちゃいけないような状態になっています。

いま全国で、やはり高齢者とか退職した数の人数は多いんですよ。そういう人たちを取りこむことによって、例えばグラウンドゴルフ大会を豊前市で開催する。

この前、私は消防操法の応援に行きましたけども、あれだって、凄い経済効果だと。行って帰るだけですけど向こうでご飯を食べます。お茶を飲みます。帰るときは、何百人、何千人と来れば、凄い金額になってくるわけですね。そんな規模で考えるんじゃないけども、例えば豊前市で大会を開くことによって弁当が売れるだろうし、ト仙、天狗の湯につかって帰る方もいると思うんですよ。だからそういう大会を催す計画はないですか。

○議長 磯永優二君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

議員さんの貴重なご意見を今後、参考にして、今後、検討してまいりたいというふうに思っております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

是非ですね、前向きに考えていただきたいなと思っています。

では、次の質問に移りたいと思います。防災対策、私は、きょうは最終日なんですけど、



初日から福井議員、渡邊議員、宮田議員、岡本議員、尾澤議員という5人、一般質問までも沢山の意見が出ました。そういう中で、ちょっと違う方面から話していきたいなと思っています。

何で、これくらいの質問が出たかとなったら、広島で大きな大水害があったためだと思っ  
ていますが、近年、南は鹿児島から北海道まで、いわゆるゲリラ豪雨が続いています。  
近隣では山国川が氾濫していますし、そして皆さん、豊前市は安全だと思っているんじゃないかな  
と思っているんですが、私も昭和55年、山間地に住んでいますので、豊前市で  
大災害がありました。佐井川が5倍、10倍になったのを実際この目で見ています。目の  
前で牛が流されたり、大きな物が流されて、実際、自分の家に帰ろうと思ったら、道が決  
壊して歩いて帰るしかない。その途中に一人亡くなられた方がいましたけど、皆さんが炊  
き出ししながら、救助に当たったのを見ながら帰ったのを覚えています。

そんな中で豊前市として、災害が来たときに、どういうふうに当たるのか。広島の時  
にあったのが災害マップが配布はされていたけど、全く説明がなかった。もう何遍も、5  
回目なんで、あれなんですけど、災害マップがありましたよね。これは平成22年度と言  
われたんですけど、全市に配布はされたと思いますけど、どこまで説明をされてきたん  
でしょうか。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。防災マップにつきましては、平成22年度に全戸配布をいたしたところ  
でございますが、内容の具体的な説明会等については、各区長会、また現在は自主防災組  
織に向けた準備、説明会に当たって、住民の皆様にも周知の徹底を図っているところでござ  
います。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

マップは配った、周知をしなくちゃいけない。よその例を見ながら今後はやっていかな  
くちゃいけないと思いますけど、広島の方で、私が実際テレビだったかマップが出てい  
ます。私どもが住んでいるのは、殆どが危険地帯。岩屋地区も、殆どが山間部は危険地帯  
になっています。

ただ見逃してならないのがここなんです。黄色い部分、浸水されるであろうという場  
所に対して、どこまで説明をされているんですか。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えをいたします。それについても、先程申しましたとおり、全戸配布の中でお願いをしていると共に、区長会、自主防災組織の設立の中で、そういう地域があるということで、説明をしているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

ありがとうございます。災害があったときに告知も注意も大事なんですね。ただ災害が起きたときに、どういう対応をするか。防災訓練、もう豊前市はやっています。東日本大震災から急に国のほうからいろんなことをやれと。私は消防団に入っていますが、一時期、消防団を減らせという話があったんです。東日本大震災が起きたら今度は国のほうはどんどん増やしなさい。何か偏ってくるというか。今後、角田地区もやりました。八屋地区も。今度は合河地区の防災訓練をやろうとしています。実際、やろうとする中で、実践的なことをやらないと駄目なんじゃないかな。

9月1日の防災の日のときに、ラジオ、テレビで実際にやっていますが、本当に実践的にやっているんですね。今後の取り組みについて、課長、どう思われますか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

今後の取り組みについて、お答えいたします。

今後につきましては、11月に合河地区で、昨年、角田地区、角田校区で行った全体の防災訓練を実施しております。その中で、特に4回のワークショップを開きます。このやり方については、今年の2月ですかやりました、明神地区でやりました。地域の皆さんに出でいただいて、まず図上訓練という形で、図面で地域のことを勉強していただきました。その後に危険な所を地域の皆さんで歩いてもらって、実際、どういう避難経路をたどったら一番効率が良いかということ、話し合いをしていただきました。

そういう会議をやっていただいて、自分たちで避難経路を作り上げて、最終日の4回目に全体、防災行政無線を使って全体の避難訓練をやったということでございますので、そういうワークショップを取り入れた自主防災組織を柱にした、今回は防災訓練を想定しております。

また角田校区においては、地震、津波を想定しておりましたが、合河地区で一番想定されるのは、やはり土砂災害、洪水、こういうものを今回は想定しての初めての訓練になるかと思っておりますので、そういうことも含めて、地域の皆さんとよく協議をして、実践に合った訓練にしたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

いろんな訓練の方法があるんでしょうけども、きのうも防災無線の話がありました。私も防災無線のことで、かなり言ったことがあるんですけど、防災無線を利用することは非常に大事だと思うんですが、きのうは尾澤議員のほうから質問があったと思いますが、防災無線の中に双方向システムというか、アンサーバックというのが付いていると思います。例えば土砂災害で孤立したときに、実際使用できるのか。これは確かにきのう課長が言われたように、1回も使ったことがない。区長に説明したのか、していないのか、それともはつきり聞いたことがありません。

実際、合河でやるときに、土砂災害が実際になるということであれば、実際使ってみる必要があるのではないかな。例えば例題を作って孤立しています、救助をお願いしますとか、そういう実践的な訓練をやるべきではないかと思っているんですけど、その点、いかがですか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

今ご指摘があった件であります、防災訓練時における地区に拡声器子局というスピーカーが付いたのがございますが、これについては、全体で62箇所あるわけですが、その内、いま議員さんが言われたようにアンサーバック機能、その現地にあるスピーカーから本部のほうに無線で連絡できる、そういう機能がございます。これについては、現在、使ったことがないような状況でございます。区長さんのほうには、そういう機能もあるという説明なり、現地で機械の操作については、お話していますが、実際経験がございません。

そういうことで、今回、11月に合河地区、2月若しくは3月に三毛門地区も同じような訓練を想定しておりますので、その中で、地元の区長会、また関係機関と調整を図って、そういう訓練も取り入れていきたいと考えているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

それでは、次に、食料、備蓄品の問題。先日、渡邊議員のほうから質問がありました。なぜ、私はこの備蓄のことを言うかといったら、私が当選して最初に聞いたときに、総務課長、今の課長ではありませんけど、食料品は地元スーパー、コンビニあたりに依頼している、それで十分まかなえるんだと言われてきました。ただどこも備蓄が必要なんです。5年、10年持つ乾パンだってあるし、5年ぐらい持つ水だったあるし、毛布もかなりの

量が必要だと思うんですけど、きのう聞いたら、備蓄されているということですが、何で急にそういう備蓄の方向に移ったんですか。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。きのう備蓄をしているというのは、災害時の資機材については、県のほうの補助事業等もありまして、この機会に大量に購入しようということで、600万円程度の予算を計上させていただいて、現在それに沿った、まず一時的に必要な物を装備したところでございます。今もう1点の食料品については、現在、備蓄をされておられません。前課長さんのほうから説明があったということで、平成21年のときに市内のスーパーと災害時における物資の供給協力に関する協定というのを結んでおります。その中で、食料品、生活用品等の応援協定を締結し、供給確保に努めているところでございます。

その中で今年、26年3月に県のほうが策定しております福岡県備蓄基本計画というのを策定しております。それには非常食の備蓄を図り、お互いが連携と協力を行うこととされておまして、本市においても、この計画に沿って来年以降、平時から備えとして、計画的な食料の備蓄に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

また関連でございますが、今年の8月22日、宮城県の東松島市と災害時の相互応援協定を結んでおります。締結式は、東松島市のコミュニティセンターのほうでございまして、豊前市からは、後藤元秀市長と市議会から磯永優二議長、並びに復興支援政策推進特別委員会の議員の皆さんの立会のもとで、阿部秀保東松島市長と協定書の調印をしたところでございます。協定には、災害発生時に食料や飲料水、物資を供給することや職員の派遣や資機材の提供などを盛り込んでおります。

今後も、このような応援協定を関係ある自治体と機会があるごとに協定を締結して、共助、自助、こういうことの実践に向けて努力していきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

食料の備蓄は、大変大事なことだと思います。前に聞いたときに、以前、備蓄していたら無駄になった。決して無駄じゃない。空振りがあって当然なんです。5年持てば、今こういう訓練をやるうえで、賞味期限が切れそうだったら、そのときに配布して、皆に食べてもらう。それで循環させていけば良いことなんですね。

いま課長が言いましたように、東松島市と防災協定を結んだ。この前、9月1日の防災

の日には南海トラフに備えての医療スタッフが訓練をやっていました。いつ南海トラフが起き、太平洋側、例えば九州だったら宮崎、鹿児島、大分県が非常に危ない状態だと思います。東松島市と協定を結んだように、備蓄していることによって、そこに救助を送ることができるわけですよ、豊前市が使わなくても。例えば豊前市に避難して来ることだってあるでしょうし、そういう利用方法だってあると思いますので、予算がない中でしょうけれども、多少なりの備蓄はするべきではないかと思っていますので、頑張ってくださいなと思っています。

次に、これは南部地区の陳情というか要望があったことについて、2点ほどお伺いしたいと思います。

豊前耶馬溪線の進捗状況ですね。これはもう何年も前から言われていることなんですね。要望があるということは、解決していないから要望が出るんであってね。

私も、津民線あたりも見に行ったりしました。私が感じていることを、ちょっと言いたいなと思っていますんですが、仕事上で、津民線のほうに入ったりします。豊前市も大きな看板を掲げていますね。豊前耶馬溪線早期とあげているんですが、津民の入り口にもあげているわけですよ。実際見てみると、その看板の上から別の看板というか、ゆっくり橋を津民路というみたいな看板をあげている。だから大分県はやる気がないのかなと。

今まで、あっこまでお金をつぎ込んできて、いいのかなと。どうするのだろうかという率直な意見がありました。ところがいま会議をやられていると思いますが、まず進捗状況はどうなんですか。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

平田議員の豊前耶馬溪線の進捗状況について、お答えいたします。

県道豊前耶馬溪線については、福岡県豊前市から大分県耶馬溪への山間ルートとして、山間地域の交流、連携により過疎化を阻止し、災害時における孤立集落の解消はもとより、関係地域の発展を目的として計画されたものでございます。

現在、福岡県側については、延長が9.9kmありまして、県境付近の未開通区間、1.05kmございます。現在、この区間については、休止状態になってございます。

道路整備につきましては、ほ場整備などで創設用地を生み出しておりまして、集落がある区間を対象に、本線の狭小な部分の局部改良を、県としては行っているところでございます。平成26年度につきましては、局部改良事業といたしまして、合岩中学校付近の改良60mを行っている状況でございます。今後も福岡県としては、改良事業を予定しているということでございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

この前、課長と話したときに、道路を拡幅しながらやっていくということなんですけど、今後、折角かなりの金額を掛けて、かなりの幅の広い道路が出来て、まったく利用していない状態です。利用しないから草ぼうぼう。実際、課長と話したように、前あそこの暴走族みたいなのが火災を起こしたりとか、実際ごみ捨て場になっている状態です。

やっぱりもう中止なら中止でも良いから、しっかりやはり管理をやってほしいなど。市の道路じゃないと思います。県道だと思いますが、しっかり県に陳情していただきたいなと思っています。市長は、この会長ですかね。市長はどう思われていますか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

ご指摘の県道豊前耶馬溪線、確かにもうすぐそこまで来ているんですが、頓挫した状態で、いわゆる延長工事については、着工が先延ばしにされております。それぞれ福岡県と大分県が協調しながら、この路線を進めてきておりますが、福岡県側が1.05kmまで、大分県側もすぐそこまで来ているんですが、なかなか両県とも優先順位において後回しにされているような印象を強く持っています。

今ご指摘いただきましたように、これから先が難工事で、どれだけお金が掛るか分からんという、見通しが非常に厳しい状況でございます。ただ私たち、この豊前市側から行きますと、いま大分県が中心になって国の事業として取り組んでおります中津と日田を結ぶ高規格道路、この路線に我々の所から至近距離でつなげられるのは、この路線ではないかと思えます。地域の発展というのが冒頭に言われました。そういう意味では、この路線は粘り強く我々も両県のほうに働きかけていきたいというふうに思っております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○2番 平田精一君**

是非ですね、前向きにやっていただきたい。防災道路、いわゆる観光道路にもなり得る道路だと思っていますので、しっかりやっていただきたいなと思っています。

最後に養鶏場の問題。実際もう養鶏場が火災を起こしてから丸2年になります。だけど、実際、臭い、ハエはなくなっているみたいですが。その地域に住む方々も、ちょっと安心している状態なんですけど、その中で、よく聞いてみると、若い人が家を建てて、帰ろうかなという話しまでなっているのは事実だと思います。だけど、いま問題としては、残留鶏糞だと思いますね。残留鶏糞がかなりの量があると思うんですけど、いくらぐらいですか。

**○議長 磯永優二君**

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

現在、火災後、滞留鶏糞なんですけど、5000トンほど、まだ残っております。屋根つきの一応コンクリートの建屋の中に保管されてますので、議員さんが言われたように、雨が降り込まないような状態になってますので、ハエとか臭いの問題、それから雨が当たらなければ流れ出すこともありませんので、そういった問題にはなっていないということで、毎月、検査のほうとか行かせていただいている状況です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

コンクリートの上に鶏糞が保管されているから大丈夫だと。話を聞くと、やはり地下水の汚染が皆さん一番怖いみたいなんです。そこに鶏糞があれば地下水に流れ込み、殆どいわゆる中山間地域は井戸水で生活しています。上水道が来ているわけでも何でもないんです。そこが汚染されることが一番怖いわけなんで、そこはしっかり早期の解決。いわゆる普通の会社ですから、行政のほうからなかなか言いにくいとは思いますが。

そろそろ、もう何年も解決しないようであれば、結構お金を持った大企業あたりがあると思います。かなりの面積があるんですね。使用方法は沢山あるのに、現在、あそこに居座っている状態だったら、全然前向きに進まないわけですよ。そういうのをちょっと後ろから押してやるのが、必要ではないかと思っているので、その点、いかがですか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

議員さんがおっしゃるとおりで、飲み水等にも影響がないようにしないといけないと思っております。それで前回の議会のときにも台風が来るとか、そういうお話もあったときに、生活環境課のほうも事前に現地のほうに行って、雨が降り込まないかとかも検査をしてきました。今後もそういうことは必要だと思いますけれども、根本的に、議員さんが言われるように、滞留鶏糞全体を、どうかして処分しないとどうしようもないと考えております。それで、いま提案いただいたように、大企業の資本を活用して、根本的に対処するという形も取りたいなと、私どもも思っているところです。

それで毎月1回、そういうことで福岡県の環境事務所と、それから農林事務所、それから農林水産課と、うちのほうで行っているんですけど、その中でもそういった提案、助言ができればと思ってやっておりますので、社長さんの、後はもう気持ち次第かなということまで思っておりますので、今後その辺はぐいぐいお願いしていきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

市長、勿論、地元でもあるし、災害があった地元でもあるし、市長のご意見はいかがですか。それを最後に質問をやめたいと思います。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

卵の里まことの滞留鶏糞につきましては、まだ鶏がいて、稼働時期から私も臭い公害の被害者の一人でございます。非常に悪臭を放ち、生活環境を壊すという意味では、やっかいな存在でございました。ただ火災を機に、いま操業を停止した状態でございます。

会社にそれだけの、これを処分する力があれば、すぐ撤去できるんですが、なかなかそこまで至っていないのが現状でございます。そこで、私たち民間の財産について、どこまで手を出すことができるのかという制限はございますが、地域の環境と、この地域の土地を含めた有効利用に伴う発展と言いますか、活用につきましては、積極的に話をしていかなければならないと思っております。

そういう意味で、この滞留鶏糞の処分につきましては、いま環境カウンセラーという方が名乗り出ていただきまして、ボランティアのような状況で頑張っております。ただなかなか計算どおりにはいかない。いろんな企業の力もというお話も聞いておりますが、なかなか前に進んでいないのが現状でございます。そこで行政として、どう取り組むべきか、この滞留鶏糞について、1日も早く解決できるように、いろんな情報を集めながら、あの地域の発展のために会社の協力を得ながら取り組んでいくべきだと思っております。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○2番 平田精一君

ありがとうございます。是非前向きにやっていただきたいなと思います。

これで私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長 磯永優二君

平田精一議員の質問が終わりました。

次に、黒江哲文議員。

○1番 黒江哲文君

皆さん、おはようございます。豊明会2番手、市民目線がモットーの黒江哲文が、一般質問を行いたいと思います。



本日の質問は、前回の6月議会に引き続きまして、人口増対策の行政の取り組みについてという1点を挙げております。人口増対策と一言で言いましても、単発の計画ではなく、生まれてから老後に至るまでの総合的な計画が必要だ、というような思いの趣旨で行っていきたいと思います。是非、執行部の皆様方、端的な答弁と、検討します、を是非挑戦しますに、少しでも多くかえていただきたいというふうに思います。

早速であります、市長に質問いたします。

この人口減少の問題、豊前市だけの問題ではないかと思えます。今では全国的に地方自治体、豊前市と同じような現状ではないかというふうに思えます。また高度経済成長期は、人口が増えることで歳入も増え、新事業をどんどん積み上げることができたというふうに聞いております。ところが、現在のような人口減少の時代では、歳入は減るが歳出はそれほど減らず、その中で事業の優先順位を決めざるを得ないと。その結末、懸念されているのが職員数のカット、行政コストのカット、そして事業のカット、そのしわ寄せはどこに来るのだろう。職員意識の低下、行政サービスの低下ということで、最終的には市民にしわ寄せが来るということではないでしょうか。

そこで全国的に注目を集めておりますのが、各自治体での首長の采配ということであり、また。総合計画の見直しを含めた計画力の徹底、それを遂行する職員意識の統率力、そのようなことが問われてくるのではないかと思えます。この人口の問題につきまして、市長のお考えをお聞きしたいというふうに思えます。よろしく申し上げます。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

お答えいたします。人口増という言葉が使われました。私が就任して1年4ヵ月ほどでございますが、就任当初、2万7300人台くらいだったんですが、今は2万7000人ちょっとでございます。本当に目を追うごとにお葬式の数が増え、出産したというニュースはあまり聞かない。バランスがマイナスの方向に行っていることは間違いございません。これをどう増やしていくかということに理想を置きながら、どう今を保つのか、今の数を減らさないように維持できるようにするのか。この2つの方法があると思えます。

私は現実的な方策として、確かに増を目指せば、それは形としてはもっともらしく見えますが、今ここで現実的に対応すべきは、これ以上減らさないということではないかと。少し目標が低いのではないかとのご指摘もあるかもしれませんが、現実策として、今おっしゃったように、歳入減から、そして職員減から、そういう役所の力もかなり劣っているというご指摘がございましたが、そういう意味でも背伸びするというのは、なかなか難しくなっている。そんな中で、実際にできることは、いま私たちが持っている力をどのように生かしていくのか。

1つ、空き家バンクという、いわゆるI・J・Uという流入に持ち込む。Iターン、全く知らない土地から豊前に一直線でやって来る。一度出ておったけど、また戻って来るUターン、Jターンというのがございます。そういうIターン、Jターンという人たちを含めて、受け皿をどこに持つのか。実家に帰って来る方だけでないIターン組みだとか、一部Jターンだとか、そういう人たちを、どのような受け皿でという中に空き家バンクが1つあったのではないかと思います。

そういう受け皿づくり、そしてもう1つは、やはり子ども・子育て、出産し、子育てしやすい環境を、医療面だけではなく、福祉面、どういう支援ができるのかという、そういう支援体制をどう整えるのか。さらに結婚して子供を産んでいただける方に、もう一人お願いしますという、そういう維持の増やし方ということだけではなく、いま未婚の、かなり適齢期の人たちが結婚しないままに出産をし、子育てをするという、そのチャンスを持ちながら、なおそこに踏み切れない人たちも沢山いらっしゃいます。その人たちに、お世話人制度として昔あったような、少し背中を押してあげる縁結びの神、そんな人たちを少し動けるように、そして情報をお互いに共有できるようなお世話人さん制度というものをさせていただいております。

実際には、もっともっと力を尽くすべきだろうと思うんですが、いま我々が取り組んでいるのは、そのような状態でございます。これで何とか踏ん張れないかと。しかしなかなか踏ん張れていないのが現状でございますので、是非、議員の皆様方からもお知恵をいただければと思っております。以上です。

#### ○議長 磯永優二君

黒江議員。

#### ○1番 黒江哲文君

いま市長より沢山の構想を述べていただきました。実際その構想に向かうについて、実際どのように、今の現状を豊前市が動いているのか、そしてどのようなことが必要なのかということが、今回の質問でできたら良いかなというふうに思うところであります。

私は、この人口増対策について、5次の総合計画と都市計画のマスタープランの連携が重要ではないかというふうに考えております。この2つの計画をもとに、少し質問したいと思えます。

まず豊前市のこの総合計画と都市計画において、将来の人口設定ということで、広報と変化率ということで、総合計画の予想では、平成34年に2万4476人、そして都市計画では、平成42年に2万1266人というふうに挙げられております。そして将来の目標人口は、総合計画が平成34年2万7000人、都市計画では平成42年に2万7000人、今の現状維持、市長が言われていたことかなというふうに思うところであります。

それでは、現在、豊前市の人口は、何名になっているんでしょうか、お願いします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

現在、8月末の住基の人口数でございますけども、2万6960人となっております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

そういうことですね。平成42年に2万7000人という目標をしておりますが、もう今現在で下回ったという状況であります。もうこの状況というのは、もう行政自体が目の色を変えて必死にやらないと、という現状ではないかなというふうに思います。

人口増対策化であります。必死な取り組みをお願いします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

議員さんからご質問いただきました件でございますけども、現在、市の取り組みとしましては、豊前市少子化対策推進会議というものを構成しております。この中で毎年人口増対策に係る検討をしております。それで各課で行っております事業を豊前未来応援プランということで、ライフステージごとに取りまとめをいたしまして、その中で、必要な事業について検討させていただいております。

それで、平成26年度からの新たな取り組みとしましては、先程、市長も申しましたように、婚活支援、結婚支援ということで、お世話人協議会の事業でありますとか、また市民健康課のほうでは、親子教室、これは子育て支援ということになりますけども、親子教室の充実、また議会からもご提案いただきました第3子以降の幼稚園の就園支援事業でありますとか、そうした事業を新たに進めながら、少しでも人口の減少を抑えたいということで取り組みをしております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

定住促進ですね、未来応援プラン、そして対策会議ということですが、実際その中身がどのように動いているのか、ということが気になるところであります。

後ほど、質問していきたいと思いますが、それとあと豊前市では、定住人口と交流人口を足してまちづくり人口というふうにしているようであります。この交流人口の対象者は、学習、仕事、観光、消費、様々な動機で訪れる方ということであります。この学習、仕事、観光、消費などの調査基準、調査の場所については、どこでどのように行っていますか、

お答えください。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

まず就業につきましては、まちづくり課のほうで毎年市内の企業、104社にアンケート調査をいたしまして、市外からの就業者等の調査をしております。それで最新のデータでは、104社の内74社、約70%の企業の方からお答えをいただきまして、正規社員、それからパート社員の方、それから派遣社員の方を含めて2385人の方が、いま市外から市内に就業されているという数を掴んでおります。

また観光面につきましても、まちづくり課のほうで入り込み客数ということで調査をしておりますが、その中で、例えば道の駅でありますと、年間いま95万人余りの方がご利用いただいているということで把握をしております。その他、消費等はちょっと数を把握しておりませんが、例えば道の駅でレジを通過する方の数等が、こうしたものに当たるのかなというふうに考えております。

学生につきましては、市内にあります青豊高校に、市外からどのくらいおいでになっているのかということで、今ちょっと詳しい数字を持ち合わせておりませんが、いま青豊高校、約6割の方が市外からの通学というふうに聞いております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

いま数字を言っていたんでありますが、交流人口については、また豊前市にはキャンプ場、自然、またフレスポ、豊築丸、各イベントなどあるかと思いますが、まずちょっとこの数字を、今のあるもので聞いたんですが、平成25年度の交流人口ということでありますが、実際このまちづくり人口の目標は、平成34年まで3万人という目標ですよ。定住人口が2万7000人の目標ということなので、交流人口の目標が3000人ということになりますよね。

これは設定自体が少ないんじゃないかと。いま聞いた話でも、企業で2000なんぼ、全部調査すればというふうになりますので、この目標設定自体が、私は曖昧かなというふうなところがありますので、この辺は、修正を求めたいと思いますが、いかがですか。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

おっしゃるとおりの部分がございます。それで総合計画につきましては、ご案内のように5年ごとの計画の見直しというものがございますので、今回の総合計画、前期計画が、

平成29年までの計画になっておりますので、その中で、また必要な部分、ご指摘いただいた部分を含めて検討させていただきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

それでは、総合計画と都市計画の将来の人口設定と、現在の人口ということをお尋ねいたしました。豊前市では人口増対策と言えば、先程課長も言われておりました定住促進パンフレットということを言われているようであります。

この中身につきましては、前回、6月議会で質問しましたので割愛させていただきますが、このパンフレットの取り扱い方を確認したいと思っております。やはり目の色を変えてやっているというのが、豊前市では人口増対策というのは、このパンフレットというふうに言われるわけではあります。このパンフレット、昨年は何部作って、何部残りしましたか。

そして今年度は何部作りしましたか。お願いします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

印刷部数につきましては、昨年、今年ともに5000部の印刷をしております。それで、昨年度の分につきましては、すみません、いま残部の数字を持ち合わせておりません。申し訳ありません。今年度の分につきましては、これからいろんな所に配布をしたいと考えております。以上でございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

前回5000部、これは委員会の中では1000部ほど残ったというふうに聞いております。前回の質問では、私が市民からの声として、1人が何枚も貰ったり、若い世帯が見たこともないという声がある。中には、これは使い方によっては、税金の無駄遣いになるんじゃないかという声を挙げたわけではあります。今回の配布方法、計画は、どのように行いますか、お答えください。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

昨年までは市内の企業を中心に配布をしておりましたけれども、今年度は少し配付の仕方を工夫させていただきまして、ちょうど市内の企業にもお配りをするんですけれども、その数を少し抑えさせていただいて、やはり市外の方に届けたいということで、これが

ら市外のいろんなイベントでありますとか、それから、いま在外市民課ということで、メールマガジンの配信等を含めた情報提供を考えておりますので、そうしたところでも活用しながら、昨年とは違う分野の方に配布をしたいというふうに考えております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

課長、いま9月ですよ。通常もう作って、この9月の時期にどうなのかという疑問もあります。この時期にはどこに配布して、どうで、イベントに何部配るといような計画がないと、私はおかしいかと思うんですよ。時間の関係上、もう聞きませんが、また委員会等で聞いていきたいというふうに思います。

それでは、前回、民間のアパートには市報が入らない。そして民間には若い家族が多い、定住促進パンフレットの内容を利用する方が多いかと思えます。そのような提案を前回させていただきましたが、このような若い人に配る、民間のアパート等の対策は、どのように考えられましたか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

すみません。その件につきましては、まだいま具体的にお示しできる内容はありませんけれども、ご提案いただいておりますので、今後の配布計画の中で、そういうところも考慮していきたいと思えますし、内容が定住促進のパンフレットでございますので、できましたら市外の方に沢山お届けしたい、というふうなことを考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

おそらく課長の、このパンフレットの思い入れというのは、これはもう市民が映像を見たら、どんな思い入れか分かるんじゃないですかね。これは実際にいま9月ということですが、この時期は通常は通常は通常ですか、それとも遅れているんですか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

本来なら、例えばお盆の時期までにはお作りをして、帰省される方、また市内で同窓会等もございまして、そういう所でお配りするのが本来だと思いますが、ご指摘のとおり、やや遅れた状況でございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

これ前回、議会より地図の誤り、内容の変更、修正の問題で、数々の指摘を受けたかと思えます。また委員会等では、発行日の年月日を入れたらどうかとか、様々あったわけがありますが、実際、このような間違いがあったり、今回、作るにあたってチェックはどのように行いましたか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

内容につきましては、今回それぞれの担当課に、内容については確認をしていただきました。また発行年度を入れたらというご指摘をいただいておりますので、新しいものにつきましては、平成26年度版とういことで表示をさせていただいております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

いろんな議会から、このパンフレットについて、私たちも真剣に言っているんですよ、人口増対策。対策は、このパンフレットだと課長が言うわけですからね。

このような問題が生じるなら議会でチェックしてもらって作ったほうが良いだろうというような、何かちょっと私の中で聞いたような記憶があります。この新しいパンフレット、委員会でもああいうふうにもんだわけですけど、議会に確認しましたか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

前回ご指摘をいただきました地図、それからゲラの段階で、一応議長のほうにはお見せをしております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

議長に見せられたということではありますが、委員会等でもんでいるんですが、委員長とかに報告するとか、そのようなことはないんでしょうか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

申し訳ありません。その辺は失念をしておりました。今後こうしたことがないように十分注意をしたいと思います。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

本当にくだいようですが、やっぱりこの計画は豊前市の人口増対策と言っているわけですが、もうこの取扱い自体の感覚。もう市長に聞いてもらいたいんですけど、取扱い自体の感覚、こういったものから見直していかないと、本当に良いものというのが出来るのかなというふうに私は疑問に思うところであります。

それでは、続きまして都市計画マスタープランについて質問したいと思います。

豊前市の計画では、5次の総合計画が最も上位ということであります。その計画の中から担当課へと流れ、各課ごとの具体的計画、実行へと進められるかと思えます。その各課の声、また地域や市民のニーズを吸い上げ、豊前市の将来像を描くのが、この都市計画マスタープランではないかというふうに思います。とても重要な役割と責任があるのではないかというふうに私は思いますが、担当課の課長は、どのように思えますか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

議員ご質問に、お答えいたします。

都市計画マスタープランは、広域的観点と地域的観点、また行政的視点と地域住民的視点から、概ね20年先の計画を計画的に示したものでございます。細かい事業等は載っておりませんが、ゾーニング、それから都市計画道路、そういうのを最終的に総合計画と同じ目標に向かってもっていけるように進めていきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

いま基本的な考え方ということをお聞きしたわけですが、私もこの都市計画の役割と総合計画との連携というのがとても重要かと思えます。

やはりこの都市計画において人口増と言えば、真っ先に思いつくのが企業誘致であります。この都市計画マスタープランでは、工業地に関するまちづくりに重要なことということで、市民へのアンケート調査を行っております。調査結果は、最も多かったのが工業団地等への企業誘致の推進、43.5%、続いて地場産業の育成、27.6%と市民の声では、このようなことを願っているようであります。この企業誘致の進捗状況を確認したいと思えます。



○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

企業誘致につきましては、ここ数年、豊前市独自の用地がないような状況が続いております。しかしながら都市計画マスタープランでも、用途に指定しております工業用地等の空き地、それから民間の遊休地を選出しまして、そこに積極的に誘致を行っているところでございます。現在、過去5年で言いますと、誘致に成功した件数は5社でございます。以上です。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ということは、5社決まったということは、平成29年度までに総合計画の新規誘致企業数の目標を挙げておりますが、5社と挙げております。この5社が、もう目標達成したということで、よろしいんですかね。実際、この数字がどうなのか。はい、お願いします。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

只今申しました誘致件数は、平成21年から25年までの5年間での実績でございます。だから総合計画の年数とは、ちょっとズレがありますが、今後、いま2箇所ほど工業団地を造成しておりますので、そこが目処がついておりますので、そこに誘致をして、最終的には目標をクリアしたいと、積極的に頑張っているところでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

目標に向けてやっているということに受け止めます。その中でやはり気になるのが、伊良原ダム完成に向けて給水が始まれば、6400トンの責任水量が発生し、赤字は勿論、1日あたり2650トンの水が余ってしまうというふうに聞いております。その辺について、企業との提携や計画は、どのように考えておられますか。

○議長 磯永優二君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 谷内英仁君

今おっしゃられたように、伊良原ダムが出来ましてからの水量につきましては、現在のところは確定の水量ではありませんが、市内にある大手企業等に今交渉している段階でございます。ただ要望については、やはり厳しい金額を申し付けられております。

その他、すぐには、いま会社等がありました、誘致等もはっきりしておりませんので、その間につきましての水道料金についての見直しを、いま幹事会を通して要望を出して、いま各自治体で持ちかえっているところでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

是非その辺の対応を、今後大きな課題となると思いますので、是非頑張ってお願ひしたいと思います。やはり私は、この豊前市にとって重要なこの都市計画が、後手に回ってないだろうかというところが気になるころであります。やはり計画的には先手を打って、様々な角度のプランを立てて、幾つかプランを練って精査していくべきではないかというふうに思います。

このような各計画等のチェック等、重要だと思いますが、総合政策課の役割りとして、また引き続き強化していただきたいというふうに思います。

次に、やはり企業誘致と言いますが、私の気になるのは、今ある企業との連携ということとあります。勿論、都市計画では企業誘致を進めています。しかし総合計画の人口増対策では、雇用の促進、住環境の設備、子育ての支援の充実などの事業があるかと思ひます。この2つの計画をしっかりと連携をとっていただいて、若い層の人口流出を防いでいく策を立てていていただきたいというふうに思ひますが、まず、はじめに総合計画の企業誘致の推進での豊前市の現状ということで挙がっているのが、本市では自動車関連企業の進出により、従業者数は増加しているものの、人口減少に歯止めが掛っておらず、企業誘致と併せて市民の雇用、定住人口の増加に向けて取り組んでいく必要があるというふうに、現状書かれております。

実際この企業者数、増加しているとありますが、企業の数が何件あるのか、そして従業者数が何名くらい今現在、豊前におられるのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

議員のご質問に、お答えいたしたいと思ひます。

毎年、まちづくり課のほうで、市内の製造業、運送業の企業の104社に調査を行っております。今年度6月に行いました調査では74社の回答がございました。全部の回答がないものですから、30%の分はちょっと把握ができておりませんが、最新の資料といたしましては、現在、回答があった分で、正社員が3186名、パート社員が602名、派遣・契約社員が528名と回答が来ております。以上です。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

製造業、運送業ということですが、いま自動車産業ということであるわけですが、深くは追求しませんが、この数字を見て、何を主体でどういうふうなところに生かしているのか、ということが実際気になるところであります。企業誘致と併せて市民の雇用、定住人口の増加ということで、企業の従業員の内、何%市内在住で、何%市外に住んでいるか。その内、独身者がどれだけいるかというようなことがアンケートや、その情報等でありませうか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

只今、説明しました数字で、ちょっとパーセントは出ておりませんので、数字で言わせていただきます。正社員が市内が1297名、市外が1889名です。パート社員、市内が357名、市外が245名、派遣・契約社員、市内が216名、市外が312名でございます。このご回答いただきました企業の中で、市外居住の未婚者数が男が524名、女性が163名と回答をいただいております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

そのような情報ということですね。企業者数と企業の製造と運送と言いましたかね。その辺の枠を広げてとれば、この数字はかなり生かせるんじゃないかというふうに思うところでもあります。私が先程、この総合計画では自動車産業ということで、また東部工業団地というのは、豊前市でも最も若い工業団地ではないかというふうに思います。

本当にこの辺の情報を含めて、何らかの手が、いろんなことが打てるのではないかとこのように思うところではありますが、この東部工業団地、何らかの企業の現状調査などは行っていますか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

東部工業団地だけではございませんが、各工業団地ごとに協議会がございまして、協議会には、必ず出席して意見交換、それから情報の収集、またお願い等を行っているところでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

## ○1番 黒江哲文君

アンケート調査をまた拡大して、続けていただきたいというふうに思います。

そのような調査が現状がどうなのかということが気になりましたので、私も商工会議所と一緒に企業の訪問を数件回ったわけでありましたが、先程、課長が言われていたような数字のように、実際にやはり市外に住んでいる方が6割くらい。市内が4割くらいかと、東部工業団地の中でも話がありました。その内、独身者は6割くらいいるんじゃないだろうかというような話がありました。これは一部の声であります、こういうような情報を収集してすると、どのような手を打つかということが見えてくるのではないかとこのように思います。私は、このような現場を知ることが最も重要だと思います。

また会議所を通じた経営者や社員などの声を拾って見たわけでありましたが、行政と連携して、何か取り組む提案などはないかということで、いろんな声を拾いました。しかし返答は、なかなか企業は行政との関わりが殆どないというような声もありました。

また企業誘致、企業誘致と言いながら、もっと今ある企業を大切にしてもらいたいという声も挙がっておりました。それと豊前市の企業なのに、近隣に人口が流出している。何も手を打たないのか。これはもったいないというような声も挙がっておりました。

これが私が聞いた中の印象に残った声ということで、このような質問をしたわけでありませんが、どのような政策が必要か、どのような計画を立てるか、いろんな材料になるかと思えます。是非各地域のニーズを吸い上げながら、総合計画との連携に活かしていただきたいというふうに思います。

そして、これは市長に聞いてもらいたいんですけど、企業に対して何か困ったことはないですかという質問に対して、やっぱり多かった声は、雇用の問題でありました。

先程、総合計画にも書かれておりましたが、内容は、ハローワークに出しても人が集まらない。社員なら良いのだろうが、やはり派遣・期間雇用、パートなどの募集しかできない。そのような条件で働く人材が少ないというのが悩みのようでありました。やはり企業と人材というのは、人口増対策において必要不可欠ではないかというふうに思います。

そこで、市長は、この就労支援の取り組みということについて、どのようにお考えでしょうか。

## ○議長 磯永優二君

市長、答弁。

## ○市長 後藤元秀君

ご指摘いただきました今ある企業のニーズ、要望と言いますか、その中で、いま働く人たちが、なかなか集まらないという声は、私にも直にいくつか入ってきております。これが現状であろうと思えますし、これについて、どのようにすべきかというところを、いま真剣に取り組んでいるところでございます。

ただなかなか、本当なら若い人たちが豊前に残っておるはずなんですが、皆出て行ってしまっている。探しますと、やはり順番を待っている人たちは、企業が求めている年代ではないとか。そういう欲しい技術を持ってないというような方もかなりおります。

ですから、これをどこまでできるのかということで、今そのネットワークづくりに取り組んでいる、例えば在外市民課だとか、いろんな市外にいらっしゃる方々、ここからまさに出て行っている方々にパイプをつくり、その方々で子どもや孫が帰って来る人はいませんか、というような呼び掛けもしたいということで、そのネットワークづくりをいま同時並行でやっているわけでございます。

また学校に私が直接連絡を取りまして、誰か卒業生で戻って来たいという子ども達はいませんかという情報収集もやっておりますし、やらせております。何件か当たってもらったんですが、いや今なかなかおらんでね、というのが今の実態のようでございます。

もう人さえ集まれば、もっと大きくしたいという企業が何社かあることも確かですし、このようなところに皆さんの力を借りながら、多くの力じゃないと、どうしようもありませんので、まさにご指摘いただいたように、最重要課題は、総力戦で取り組んでいく、これしかないと思いますので、そういう意味での市民への呼び掛け、地域への呼び掛け、頑張っていきたいと思っております。

#### ○議長 磯永優二君

黒江議員。

#### ○1番 黒江哲文君

まさしくいま市長が言われたような現状ではないかと。本当にこの成果をあげるために、やはり様々な方法を考えたり対策を考えながら、幾つか成功していくというような、まずはそのような意気込みが大事ななというふうに思うところであります。

そこで豊前市の総合計画では、就労支援について、どのような考えなのかというふうに言いますと、豊前市の現状ということにつきましては、契約・派遣社員やパート、アルバイトの増加など、雇用状態が大きく変化していると挙げております。施設の重要課題ということで、就労の場の確保、就労に向けた支援、就労環境の充実というふうに挙げております。施策の基本方針、働きたい人のニーズに合わせた就労機会の確保、良好な就労環境の継続を図るための支援を行います、というふうに計画の中では挙げております。

本当に1つひとつ具体的なところから、どのように進めていっているのかというところが質問したいところでありますが、まず私が3月議会で質問した件であります、豊前市には、青豊高校があります。豊前市に残るよう就職活動の支援を行なったらどうかといった件であります。内容は、担当の先生が単独で企業の訪問をしている、そして商工会議所と連携して職場体験など企画して、一人でも多く豊前市に残るよう、豊前市で策を練ってはどうかというふうな要望をしたことでもあります。

この要望についての動きについては、もう就職活動が始まっているわけですが、その後、どのような状態ですか。担当課長、お願いします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

高校については、なかなか高校が自主的に就職活動、それから就職支援をしておりますので、そこについては、高校側とは十分協議ができてない状態でございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

そうですね。そういうことなんですね。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

高校生の現役の就職につきましては、学校と企業の間で話し合いをするというのが基本でございます。企業が直接ではなくて、確か職安、そういう公的な機関が間に入らないと、直接交渉はできないんじゃないかと思っております。それで、その他の情報をバックアップするというのが、我々のできることではないかと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

そのような考えということですね。その部分に、私は一步踏み込んでいただきたいという提案を、今からさせていただきたいというふうに思います。

前回、説明したのが、青豊高校の求人の数ということで、全体の募集が平成23年度は72名の内、確定が37名だった。平成24年度は全体が81名の内、確定が41名、平成25年度は、全体が105名の内、確定が52名ということが、前回お伝えした内容であります。数を見て分かるように、求人数と確定数を、いかに増やすかというのが必要ではないかというふうに思います。

今年度の青豊の現状というものにつきましては、平成26年度7月1日から9月2日にかけて、企業の募集が全体で61社、そして豊前市の企業は14社募集を出しているということであります。いま青豊のPTA会長も大変熱心で、どうにか行政や会議所と連携して、就労支援などの連携が取れないかというような、いろんな議論をしているわけですが、しかし実際今の青豊の現状というのは、求人が多ければ良いということではなく、先程、市長も言われていましたが、求人する側と生徒の希望が合わないことが多いと。

とにかくそれをどういうふうにもマッチングさせるかということが重要ではないかというふうにも思うわけでありまして。

そこについて、ちょっと数点質問したかったんですけど、全くその辺の担当課と市長と私はちょっと思いが違ったもので、この産学官連携の取り組みを、どのように考えているかと。青豊高校と連携して、つないでみてはどうかとそういうことで、流出を防げるんじゃないかということをお聞きしたかったわけでありまして、いいです。

そこについて、実際、産学官連携については、北九州市が取り組みを行っております。自動車関連事業の関連産業人材育成事業ということで行っているわけでありまして、産学官の産は、企業はトヨタ自動車九州など、完成車工場など3社が対象ということで、学の学校は、小倉、戸畑、八幡、苅田の工業高校ということですね。官は、行橋、苅田の行政。そして北九州市、豊前市は商工会議所という窓口になっているわけでありまして。

狙いは、生徒に自動車関連企業などの先端技術を体験させ、より実践的な技能を身に付けさせるということみたいです。夏休みには、ある学校では、期間中に企業約60社に学生を派遣して、そして企業実習を行っているそうです。そのような形で、もう1つの狙いは、やはり若者の流出を防ぐという意味もあるということでありまして。そのような意味合いで、いま青豊高校というのは、普通科とグリーン何科とか科がありますね。

そのような高校との連携も重要ではあると思うし、この自動車関連ということに限らず、産学官の連携で流出を防ぐという方法を取り組むべきではというふうにも思いますので、いかがですか、市長。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

本当にもっともなご指摘だと思います。確かに雇用契約に至るまでは公的機関が、学校としかるべき職安が間に入らなければということになっておりますが、そのバックを育てると、支援するという意味では、人材育成という意味では、本当に私たち行政の持っている力、企業と我々地域の行政の力を合せて子どもにチャンスをつくり、そして方向を見いだしていく。そのチャンスを我々が沢山つくり、まさにマッチングをうまくできるようなという支援は必要だろうと思います。

青豊高等学校も、工業系はないんですが、いまロボットを作るなど、ITのほうにもかなり力を入れていただいておりますし、もともと土木のほうの技術のほうも必須のコースということでございます。さらに電気工事2級の免許を取れるように講座ができております。そういう技術系の人たちも育てるようになっております。ただ残念ながら、その人たちが進学をしたり就職しない方向に、今ある流れになっているので、これを何とか地元で就職するようなことも視野に入れてもらえるような、そういうバックアップと言いますか、

アドバイスもできればと思っております。また企業とも、本当にどういう人材が欲しいのかということ、我々もできる限り情報収集しまして、行政として、どんなバックアップ、支援ができるか、前向きに検討していきたいと思っております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

このような1つひとつの事業を積み重ねて、やはり変化が出てくるのではないかとこのように思うところであります。本当にもう今、目標人口を切っている状態でありますので、このようなことを担当課が、しっかり行っていただきたいというふうに思うところであります。やはり学生の就職活動、社会人としての第一歩、家族としても、とても心配されているかと思えます。初めの仕事というのは、やはり人生においても、とても大切なことかと思えます。この産学官連携の取り組みも含めてですが、新卒の対応、しっかりと行政でお願いしたいというふうに思うところであります。

まだ続いてありますので、それともう1点、執行部に重視していただきたい点があるんですが、全国的に女性の安定雇用の場が地方で限られているという現実であります。やはり考えるべきことは、子育てをする女性に対する働きやすい環境の整備ではないかというふうに思えます。子育ての女性は仕事をするにあたり、大変なリスクがあるかと思えます。毎日、出勤前、出勤後と、かなり労力が掛っているということでもあります。

また子どもの病気をはじめ、保育園児から大学に至るまで、様々な子どもの授業や出来事があるかと思えます。職を探すには、小さな子どもがいると採用には不利だという話も聞きます。やはり若い方に安心して、子どもをどんどん産んでもらうためには、女性が働きやすいような環境を企業に提案したり、協力を提携するような取り組みが必要ではないかというふうに思いますが、その辺につきましては、どのようなお考えですか。

担当課、お願いします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 栗焼憲児君**

議員おっしゃいますように、男女共同参画の取り組みの中で、やはり女性が企業で本当に働きやすい状況をつくることは、課題の1つであります。特に、よくM字曲線と言うわけですが、出産後に女性が一応退職されて、その後またお子さんの手が離れたときから働き出すと。女性としては、やはり働く意欲がすごくあるんだろうというふうに認識しております。そういうところを、どう支援していくのかというところで、いま市のほうで取り組んでおりますのは、男女共同参画に対する民間の企業さんも含めて研修ということから、まず始めております。



なかなか子育てを応援する企業ということで、お願いするのが難しいところもあるんですけども、これから人口が減少していく中で、やはり女性が働ける環境をつくらないと、人口も増えていかないということで認識をしております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

是非よろしくお願いします。

それでは、この就労支援の事業ということで、私も各自治体の事業など、取り組みを見ましたが、見る限りでは、やはり全国的に働きたいという人へのサービスや助成、いわゆる定住促進パンフレットの中身のような行政サービスということが、大体行政の一般的な考え方だというふうなところで思いました。

私が先程も言いましたが、市長にお願いしたいのが、雇用を受入れる側の窓口の強化ということであります。地場の大手から中・小・零細企業などの協力や情報を含めた仲介役、就職の仲人事業ということでありますが、雇用する側の事業者の大半が商工会議所の会員であるということであります。また会員の中では人材確保に悩んでいる所もあります。

この就労支援の事業計画ということですね、勿論、市長もさっき言われたように、行政とハローワークということが、ハローワークというのが基本と思います。そこはしっかり連携して、今まで以上に豊前市が一步踏み込んで企業との情報交換、この辺のつながりをしっかり持ってもらって、雇用の促進につなげていただきたいというふうに思いますが、一言で良いので、お願いします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

仕事を求めている人と、人を探している人、これをうまくマッチングさせる。勿論、公的な部分ではハローワークを窓口にも、また例えばお盆だとか年末にUターンした人たちに、そういう説明会だとか、そういうのを行政も加担しながら、やっているケースがかなりあります。私たちも、それをやはり将来には取り組んでいかなければならないと思いますが、そのためには、我々も独自のネットワークを持ちたい。つまり豊前出身者だとか、豊前に関係している人、Jターンなどで一時住んだ人、その人たちに我々がメッセージを送れるようなネットワークをつくりたいというのが、いま1つ課題になっております。

また今、我々が持っている、そのネットワークの中で、どのようなニーズがあるのか。細かく私たちも、いろんな通信手段を使って情報を収集したい。できれば市内のいろんな各種団体がございますので、そういう人たちにも豊前に帰ってきたいという人たちは、いませんかと、豊前に戻りたい、豊前に住みたいという人たち情報というのを、我々はやは

り常にネットワーク、アンテナをあげて情報として持つておかなければならない。

そういう情報をもとに企業の皆さんに、それを提供できる、こういう人がいますがどのような事業と言いますか、展開ができれば理想的だなということで、いま細々ですが、少しずつですが、それに向かっているところでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ということで就労支援について、先程、数点あげましたが、是非、本格的な取り組みを期待したいと思います。よろしくをお願いします。

それでは、次に、住環境の充実をテーマに数点お尋ねしたいと思います。

総合計画においては、中心市街地の民間住宅等への建設を誘導するために、宇島駅周辺の環境整備を進めます。また計画的な土地利用について、都市計画との整合性を図りながら、とあります。また都市計画の中では、地域別構想での豊前市を5つに分けての計画ということを進めているかというふうに思います。

そこで、地域別で人口はどうなっているかという現状で見ますと、多い順から、ちょっと5つだけ挙げさせてもらいますけれど、今現在、人口、八屋が4391人ということで1番であります。続いて三毛門が4352人、宇島が3722人、千束が3407人、黒土が2915人というふうになっております。そしてこの高齢化率ということですが、今変わったかどうか分かりませんが、31.96%というのが全体、これに近いのかなというふうに思いますが、この若い順ということですね。高齢化率、若い順はどうなっているのか。三毛門地区が1位で27.14%、黒土が28.58%、千束が29.62%、宇島が30.87%、山田が31.01%というふうになっています。

このような地域のニーズに合わせるということは、各地域によって様々な現状があるかというふうに思うところであります。そこで、宇島、八屋地域について、ちょっと質問したいと思います。中心地域、宇島駅周辺をコンパクトシティの実現を目指します、とあります。そのコンパクトシティにおいて、宇島駅及び駅南の市街地を中心に公園や公共施設等、公的なサービス施設を適切に配置するとともに、またその周辺部には、それらの都市的なサービス機能を享受できるよう、利便性の高い住宅地を形成するとあります。

いま実際このコンパクトシティを含めて、豊前市でアンケート調査を行っているというふうに思いますが、このコンパクトシティの構想、市長、何か考えはありますか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

コンパクトシティ、その機能をより、その地域の実情に合った形で、背伸びしないコン

コンパクトな街をつかっていこうという、その考え方は、私は市長になる以前から、もう決まっていたことだと思います。そこにあるフレスタウンなどが、そういう意味で建設が推進されたのではないかと思います。

実際に、現実には人口減少の中で背伸びをして、かつてあった施設をそのまま温存していくということで良いのかどうかというのは、やはり念頭にあります。ですから、今の身の丈に合った形で、さらにそれを機能アップするような、使いやすくするような、また効率的に動けるような、安全な、というようなキーワードを加えて、コンパクトな街、中心街ができるということは、望ましいことではないかと思います。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○1番 黒江哲文君**

ちょっと具体的にというのは、このアンケート結果で、またこれから中心市街地のことを詰めていくのではないかとこのように思いますので、ちょっと質問は控えさせていただきます。

そこで便利性の高い住宅地ということで、八屋地区において1つ提案がありますが、八屋地区、教校の小今井潤治翁さんの周辺について、お尋ねします。日鉄建材の宿舎の跡地ではありますが、そのままの状態であります。その周辺は、住宅地などの有効活用をしてはどうかというふうに思いますが、その辺は、どのようにお考えですか。

副市長をお願いします。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 後小路一雄君**

今ご指摘の教校地区だと思います。広大な民間の土地がございます。その高台の中心に、今ご指摘いただきました小今井潤治翁、豊前の誇る偉人の巨像が建っているわけがございますけども、民有地でございますので、今は住居用地域ということに用途はなっております。

そういうことで民間の方のお話もする必要がありますけども、この9月28日ですか、この小今井潤治翁の生誕200年祭を実行委員会で挙行するというようなことがあります。この豊前の誇る先達の小今井翁のこの巨像の建っている所は、市有地でございます。豊前市が保有しておりますので、ここについては公園化したいという思いがございますので、こういう要望もあります。議長とも相談しまして、この一帯については、まず関係者と話しを始めたところでございます。

今後こうすることで、皆様方のまたご意見等も聞きながら、議員の皆さんのご意見を聞きながら協議を進めていければと思っているところでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

いま言われていましたが、小今井潤治さんと言えば、宇島漁港をはじめ、豊前市に多大なる貢献をいただいた偉人です。先程言われていましたが、生誕200年祭ということで、式典をはじめイベントを開催するわけですが、商工会議所青年部等も偉人の検証ということで清掃活動も行っております。

やはり豊前市としても、小今井さんにしっかり礼を尽くしていくべきではないかと、生誕200年に向けてですね、という思いの中で、私はその住宅地、もう今は本当に副市長が言っていただきましたが、公園等をやるべきではないかというふうに思ったところがあります。それを先に考えていただいているということは、大変嬉しく思うところですが、やはりこのコンパクトシティとして、小今井さん周辺、住宅、公園を整備すると、コンパクトシティの一角としては、学校も近いし、駅、買い物も近いので、利便性がとても高いのではないかというふうに思います。是非、そのような計画を進めていただきたいというふうに思うところがあります。

続きまして、ちょっと小今井さんつながりで、若干ズレますが、豊前市に貢献をいただきました偉人のつながりということで質問します。宇島日の出町に小畑平三郎の石碑というものがあります。教円寺前にですね地元からの要望があったということで聞いておりますが、簡単に、どのような内容ですか、課長、お願いします。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

生活環境課のほうに、宇島にあります石碑がございまして、そちらの周りを囲むブロック塀が壊れていると。子どもさん達とかに危険があるんじゃないかということで、最初相談を受けまして、所有者さんのほうに壊してもらえないかという、ご相談をした経緯がございまして。そういう話をされていて、そして所有者さんも壊そうかという話が出たときに、小今井さんの研究会のほうだと思っておりますけれども、豊前市の漁協の関係で貢献された方だという話がございまして、そういうことで市の文化財としてどうかならないかというご相談を受けております。

教育課等とお話をして、じゃどうしたら良いのかということで、昨年度もお話をしておりまして、いま宇島の港のほうの埋め立て等もやっておりますけれども、そういったものと併せて検討しているところです。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

実際にいま検討中ということでありましたが、やはりこのような偉人の検証ですね、豊前市の歴史の検証をしっかりとすべきではないかと思うところであります。これは生涯学習課ですか、小畑平三郎さんというのは、どのような方かご存じですか。

○議長 磯永優二君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

議員さんのご質問にお答えします。私自身、個人としては詳しくは存じないんですが、宇島港をより多く改修したというふうに聞いております。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

小畑平三郎さん、名前がちょっとあれなんですけど、この方は、明治期に豊前海の主に漁業組合設立、そういうところも含めて、この豊前海の当時は18ヶ浦ですか、そのリーダーとして、非常に功績のある方です。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

豊前市史に載っている人物であります。ちょっと時間の関係上、功績を伝えたかったんですが、市長はご存じでしょうけど、私は、担当課長に、この移動するとかということに当たっての認識をちょっとお聞きしたかったということでもあります。

佐野課長、このような豊前市史に載っている検証ですね。石碑を移動してくれということではありますが、やはり今度いま宇島の漁港の新設を行っているわけですよね。やはりそのようなところ、宇島漁港に貢献した方なんで、移設をしたらというふうに思うんですが、課長は、その辺どういうふうにお考えですか。

○議長 磯永優二君

生涯学習課長、ひとこと。私見を言ったら駄目ぞ。宇島漁港ぞ。この場で私見で軽々しくものを言ったらつまらん。あなたは生涯学習課長という立場で、しっかりとものを言わな。わかった。生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

小畑さんの石碑につきましては、文化財というふうな位置関係に、今のところなっておりませんので、宇島港への移転ということにつきましては、今のところ、まだ未定だというふうに思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ちょっと若干、話がズレているかなと思いますが、このような移転をするに当たって、文化財のどの範囲が基準で登録ができるんですか。どこまで偉人の度合いと言いますか、その辺についてはどうなんですか。

○議長 磯永優二君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 佐野京一君

豊前市の指定文化財というものは、審議会等で、一応認定をされたものが文化財というふうなことになりますので、小畑さんの遺跡につきましては、私の石碑という形で、文化財というものではないというふうに認識しております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ということは、この問題が地域から起きて、長きにわたってあるわけですけど、担当課長は、この人が何をしたかも分からないで、それが登録できる、できないとか、そういうような話しというのは、私はどうなのかなというふうに思いますが、調べてもないで通らないということですね。

○議長 磯永優二君

教育長、答弁。

○教育長 戸田章君

いま課長が答弁したのが今の現状です。今の現状はそうっております。しかし今議員が言われるような、あるいは市長がそういった偉人の方ということで、審議会のほうに答申等をして今後検討する、そういうような形で生涯学習課が担当、あるいは市としてどうするかというような問題は、全体的に執行部でまた議論はしなければならないというふうに考えます。現時点での答弁だったと思います。以上です。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

是非、担当課長につきましては、そのような、どうか偉人については、検証したいというような情熱を持っていただきたいということをお願いしておきます。期待を込めます。

それでは、続いての質問に入りたいと思いますが、住環境の整備ということで、上町団地のことについて、お尋ねしたいと思います。

今現在、9階建てが2棟建っております。今後どのような計画で進んでいくのかという

ことが気になるところであります。そこで、初めから2棟の予定だったのか、それとも何棟か建てる予定だったのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

建設課長、答弁。

○建設課長 木部幸一君

当初計画においては、5棟建てる予定をしてございました。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

そして、今現在は、どのような予定ですか。

○議長 磯永優二君

建設課長、答弁。

○建設課長 木部幸一君

今現在は、議会等のご指摘を受けまして、建替え等ではなくて民活を利用した住居等の検討をやっているところでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

議会との、というのが、ちょっと良く分からないんですが、実際、現場のほうではいつ建つんだろうか。そしてまた数年前から、私は話を聞いていますが、いつ頃建つと言いつつ、いつ頃建つだろう、早く建つように言ってくれなど、そのような声があります。

これは建設するときは、団地のほうに説明会を行ったかと思いますが、その後、事情なり何なり住民に説明会などは行ったんですか。

○議長 磯永優二君

建設課長、答弁。

○建設課長 木部幸一君

当初、説明会は、平成13年に3階建ての住居を建てるという計画で、入居者の方々全員に説明会を実施してございます。その後、16年ということで、最終的には17年に9階建ての計画変更ということで、入居者の方には説明をしているところでございます。

その後、計画変更後の上町団地の方々の前期・後期の計画について、平成17年度に行っておりまして、その後、市のほうといたしましては、2棟建った後、計画のいま中止状態でございますが、その後どうするのかというのがはっきり決まった段階で、地元のほうに説明をいたしたいというふうに考えてございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ちょっと説明してないというような認識でよろしいんですかね。

実際、自分が待っている立場というふうに考えると、旧の古い団地から9階建が見えて、立派な団地があって、もう少ししたら新しい団地に住める、毎日、そう思いながら住んでいるんですよ。やはりそのような状況が変更したりとしたら、市の立場の話じゃなく、その人たちのことを考えたら、もうちょっと説明を具体的にしていけないと混乱したり、だから誤解が起きたりとかいうことに、つながるんじゃないかというふうに思いますが、説明会については、どうですか。

○議長 磯永優二君

課長、ちょっとその前に、先程の答弁の中で、議会から指摘されて、いま止まっとるといようなことを言ったね。行政の施策として、これは止まっとるんだから、そこを訂正せな、何か議会が止めたみたいにとられるよ。違いますか。課長、答弁。

○建設課長 木部幸一君

申し訳ありません。先程の答弁の中で、議会の指摘を受けという文言がございました。取り消させていただき、市のほうの施策の関係で、休止状態であるというふうに訂正させていただきます。申し訳ございませんでした。

地元の説明会につきましては、市のほうの方針が決まらないと、なかなかそれだけでは、地元の了解をいただけないというようなこともございます。現在、福岡県のほうに良い事業等がないかと、またコンサルタントあたりに提案をお願いしているところです。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

時間の関係がありますけど、先程言われた市の方向性が決まらないと、説明会ができないというような話がありましたけど、そのような感覚がおかしいのではないですかと。

じゃ市の方向が決まらなかつたら、何年もほたっとしても良いんですか。だから説明会をするべきじゃないですかということに対して端的に教えてください。

○議長 磯永優二君

建設課長、答弁。

○建設課長 木部幸一君

説明会については、できるだけ早く行いたいと思います。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君



是非、説明会、そしてまた方向性もありますが、いろんなやり方を考えながら、9階建てで予算のリスクがあるなら、3階建て2階建てで計画するとか、いま残っている方の不安を取り除くことが大切ではないかというふうに思います。もし、民業圧迫と懸念するなら、民間でできるかを試算して、民間で採算が取れそうなら、公募して希望がなければ市で取り組むとか、何らかの手立てを早急に、いろんなアイデアで打つべきじゃないかと。

また下條村と言いますか、人里離れた山奥に奇跡の村ということで、若者に向けた住宅地を設立するのに、国の補助を充てずに村独自の予算でやったと。それ何のためかというのと、入居者に条件を付けるためだと。安い家賃で子持ちか結婚者を指定してですね。各自治体への事業の参加とか、消防団の入会とか、そういうことをしながらサービスを行ってきたというような町もあります。

やはり市長、この上町団地の件、本当に早急にどうにかしないと、悪い時期が来たのではないかというふうに思います。是非いろんなやり方があるのではないかと。住宅を建てて下にコンビニを入れたり、そこについて公園は隣にあるわけですからね、住環境が整ったまちにする環境というのは、あの敷地があれば空き地もありますし、できるのではないかというふうに思いますが、市長、どのように思われますか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

上町団地の、まだ残っていらっしゃる古い建物に住んでいらっしゃる方々への配慮という意味では、早急に方向性を示さなければならぬと認識しております。

ただ、いろんな意見が寄せられております。その意見をそれぞれ耳を傾けながら、今どういうふうな選択をすべきか、また先程ご指摘いただきましたように、民間の力を、どのように取り込むことができるのか、それも含めて、いま一部打診をしているところでございます。その結果がまだ上がってきていない状態でございますので、それを急がせたいと思います。以上でございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

是非よろしく申し上げます。

それでは次の住宅ですね、三毛門三楽の住宅が豊前市で取り組んでいるかと思いますが、総合計画では、住環境の充実において基本事業に挙げております。三毛門住宅跡地整備事業は、宅地として適切な条件の整備を行い、販売促進に結び付くよう道路整備や住宅構造を図っていきたいとあげております。

担当課に質問しますが、今から販売に至るまでということではありますが、販売価格など

の設定、このような工程のほうはどのようになっていますか、お願いします。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

今まだ26年度予算で整備を行っているところでございます。その中で、鑑定評価等を行って価格を決めたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

ちょっとこの市の工程というのが良く分からないんですけど、鑑定評価というのを、今のタイミングでするのか、実際、地元では近隣で分譲しているような業者さんとかも、市が幾らで販売するのかと、とても気になっております。購入者も同じです。実際、早く金額設定とか動きをしないと、逆に民間を不安にさせている状況ではないかというふうに思うところであります。

この工程について今のやり方が正しいのか、どうなのかというのは分かりませんが、通常、民間では、区画割の検討、そして工事原価の算出、そして販売価格の決定、スケジュールの設定、計画の実施、そして販売会等のような工程で行われると思うんですが、その調査自体が、そのタイミングで正規なんですか。それとも遅れているんですか。

○議長 磯永優二君

まちづくり課長、答弁。

○まちづくり課長 大谷隆司君

三楽住宅跡地につきましては、県から払下げを受けて市が整備した所でございますが、今年度、工事が1本残っておりますので、最近、完成して完了したところでございますので、今年度の予定どおり工事は終わったと認識しております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

通常、民間では、そういうような工程でやるかと思えますけど、今から調査を行って、未だに金額が決まってないというのは、告知できないから分かっているけど控えているのか。それとも本当に金額が決まってない状態なのか。それじゃとても民間の考えからしたら、考えられない状況なんですけど、その辺がどうなのかということです。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

いま地目変更をまちづくり課がして、うちに来るようになっておりますので、区画をいま確定させている状況で区画が確定すれば、当然、面積が確定しますので、鑑定評価を出して早く売りたいというか、いま予定しているところです。

○議長 磯永優二君

地目変更は、宅地のままやろうもん。嘘ついちゃ駄目よ。財務課長。

○財務課長 諫山喜幸君

まだですね、現時点では雑種地で取得をしておりますので、まずこれを地目変更しなければなりません。

○議長 磯永優二君

全部かね。

(財務課長「はい」の声あり)

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

また、その手順自体がどうなのかと。とにかく市がするに当たって、やはり民業圧迫にならないように、しっかり地元の不動産業者等、しっかり協議しながら進めていただきたいということが、お願いであります。

それでは最後になりますが、この東部工業団地付近、この三毛門地域ということで、もう幾つか質問したかったところではありますが、やはりこの三毛門、千束、黒土地域というのは、先程も言いましたけど、豊前市でも一番若い地域であります。是非ですね、この東部工業団地もありますし、また上毛町、吉富町にも面しております。企業と連携して、若い層をいかに移住していただき、定住に持ち込むかという策が必要ではないかというふうに思います。

例えば、企業と提携して企業社員向けのアパートを造ったり、また住宅地の整備、公園、託児所など、若い世帯が住みやすいようなまちづくりを行い、なおかつそのまちの街並みを民業圧迫にならないように、会議所や地元業者たちとしっかり練っていけば、豊前市がこの先投資をしても、後々回収できるような計画などできるのではないかというふうに考えるところであります。その辺について、最後に市長、お願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

いま豊前市で最もポテンシャルのある将来伸びる可能性のある三毛門、黒土地区という地域を出していただきました。確かにそのとおりでろうと思います。あの地域が持っている潜在力、可能性について、どのように取り組めば良いのか。どういう場所が手に入るのか、工業団地を造ろうとしているときに、非常に農地転用など難しいところがございます。

ですから、そういう土地が手に入るかどうか、その辺も含めて投資できる環境にあるかどうか、情報を集めたいと思います。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○1番 黒江哲文君

是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

きょうの質問は人口増ということで、家庭から一歩外に出たときに、仕事でどこで働こうか、どこに住もうかというようなところの環境整備のテーマでありました。前回の質問につきましては、家庭の中で、いろんな公共料金をはじめ、そういったところの行政に携わるサービスの話だったわけでありましたが、後もう1つ、交流人口ということが、その人口の中で重要視されるのではないかと思います。

この計画をまとめるために、総合計画、都市計画、そして市長には市内の組織力の強化ということで、いろんな計画を具体的にしたときに、やはりその地域、地域の事業があるように、そこに予算があつたら、単発の事業を持ち込むんでなく、必ず市長も沢山やりたいことがあるかと思ひます。それをやるに当たって、その計画の中に持ちこんで、そして市内でしっかり調査した上で実行していただきたいと、是非ですね、市長の知識や力があれば、豊前市はまだまだ良くなるかと思ひます。必ず市内のまとめ役をしっかりお願ひして、発展に向けていただきたいというお願ひを込めまして、私の一般質問とさせていただきます。本日はありがとうございました。

○議長 磯永優二君

黒江哲文議員の質問が終わりました。

傍聴者の皆さん、本当に貴重な時間を割いていただきまして、傍聴に来ていただきまして、ありがとうございます。議会を代表してお礼申し上げます。

ここで、お知らせを1つさせていただきます。

第3回目の議会報告会を、11月12日から14日の3日間と、11月21日に地域4地区に分けて、また行いたいと思ひますし、今度の議会報告会は、少しでも多くの市民の皆様方の意見を聴こうという時間を少し長くつくろうと思ひます。

どうか、きょうのように若い方を含め沢山の市民の皆様さんが、3回目の議会報告会においでくださることをお願ひして、私から、議会代表としてのご挨拶といたします。

ここで議事運営上、暫時休憩いたします。

再開につきましては、放送をもってお知らせします。お疲れでした。

休憩 12時18分

再開 13時30分

○議長 磯永優二君

皆さん、こんにちは。会議を開く前に、午前中の答弁で、総合政策課長より、一般質問の答弁の内容を一部訂正したいとの申し出がありましたので、これを許可します。

総合政策課長。

#### ○総合政策課長 栗焼憲児君

午前中の黒江議員のご質問の中で、総合計画の基本計画の見直しについて、当初から5年後の平成29年ということ、ご説明いたしました、正確には、前期基本計画の見直しが5年後ということ、前期という説明が抜けておりました。お詫びして訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。

#### ○議長 磯永優二君

以上のおりです。

それでは、休憩前に引き続き、豊明会の一般質問を続行いたします。

鈴木正博議員。

#### ○4番 鈴木正博君

こんにちは。昼からの眠い時期に私の質問でご迷惑でしょうけど、最後までお付き合いをお願いしたいと思います。

今議会に豊前市の政策に関わる重要な件について、2問質問したいと思います。市長はじめ執行部の真摯な回答をよろしくをお願いしたいと思います。

最初に豊前市の認知について質問します。認知というと非常に難しい文言でございますが、これは以前から豊前市というと、なかなか他市ちょっと遠くに行くと、なかなか豊前市とはどこですかというようなことで分りづらい、認めてもらえないところがあるわけですね。先日、私はある団体の研修で春日市に行きました。春日市の研修を受けたんですけども、最初、隣に座った理事の方が、お互いに自己紹介しながら向こうは柳川市ですから、すぐ分かりましたけども、どこですかと聞かれまして、豊前市ですと言ったら、豊前ちゃどこにあるんですかという話でウツと思ったんですね。確かに大阪とか、そういう所に行っても、県南のほうに行ってもですね、人によっては豊前市と言ってもなかなかどこにあるかというのは、分かってもらえないことが多いわけです。

そこで私、現職時代からいろいろ考えたんですけども、はっきり言って、きのう、おとといと議員の質問にありましたように、行政は縦割りの社会で横のつながりがなく、連携が取れてない一面もありまして、豊前市について宣伝が足らなかったんじゃないかなというように思いに至りました。

そこで私自身、黒田官兵衛、大河ドラマが始まって、黒田官兵衛で豊前市をいかに売り出すかというようなことも考えました。しかしながら黒田官兵衛、もう半分以上終わって、豊前市というのは、なかなか地域的にあまり黒田官兵衛に関連してなかったわけで、どうも中津市、福岡市の一人勝ちみたいな感じがあります。

そこで昨日も議員の一般質問にありましたように、豊前の特産品、それとか農産物の主要品目ですね。それに対して豊前市が豊前の品物ですよという、京築じゃなくてですね、そういうのはネーミングと言いますか、頭に、冠に全て豊前という名前を入れて売り出すようなことをしてなかったんじゃないかと思います。1つは、豊前という当たり前の文字を軽く考えていた感があったんじゃないかと思います。

そこで今後、市役所の中で考えて、豊前市で売り出そうとする品物、以前のもも含めまして見直して、豊前が全部付いているかどうかですね。付いていないとしたら生産している所に頼んで、豊前ということを入れてもらう。それもはっきり言って豊前市ですね、それをそのものが豊前市として出しているものかどうかですね。ある程度精査した上で、出していったらどうかと思います。それについての補助金を少額でも出して、それをやっていくというようなことをしていただきたいと思います。

それから、ふるさと納税の件でありましたけど、10品目じゃなくて、議員の中からあったようにいろんな物があります。それをふるさと納税の品目については、インターネット、それからパンフレットなんかに出るんじゃないかと思います。より多くの品物、要するに豊前にはこういうものがとれますよ、良いものがありますよということで宣伝したらどうかと思います。それが豊前には、こういうものがあるということで話題性を生むし、豊前とは良い所だというようなことで、皆さんに宣伝できるんじゃないかと思います。

そこでJRの駅もあります。以前といっても20年か30年前に、豊前市は宇島駅を豊前駅にするような話があって、その当時、私の記憶では1000万円か2000万円掛かるような話で頓挫した経緯があったと思います。それは非常に難しい問題であったら、宇島駅、三毛門駅に駅そのものの看板をはっきり言って、豊前で作らせていただいて、小さな字、括弧書きでも良いですから、豊前という名前を豊前松江がありますね。そういう形で、全て見直しをどうかということを考えていったらどうかと思います。

高速道路の質問にもありました。中身のことは言いませんでしたけども、やっぱりそこに豊前、豊前、豊前というような名前をしつこく使うことによって、豊前を認知していただく方法があるんじゃないかと思います。そういう市役所で一貫性、一元化をもってそういうことをやっていただければ、豊前市はその内に認知されるんじゃないかと思います。そういう意味で、担当課の考えをお聞かせください。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 栗焼憲児君

豊前市を広く市外の方に認知していただく取り組みとしましては、既に平成元年に僕は豊前、遊食自然の里、というキャッチコピーを考案したのが、一番最初であろうかと思えます。その後、くぼてん君のマスコットキャラクターが登場するなどして、当時としては

先駆的な取り組みを進めてきたと認識しております。その結果、特産品の開発や市外へのPRなどで積極的に利用され、一定の効果を上げてまいりましたけども、近年は、ややインパクトが弱くなっているかと感じております。

議員ご提案のところにつきましては、今後どういう工夫ができるのか、関係者とも協議したいと思っておりますし、それから、ふるさと納税のご提案につきましては、先日、山崎議員からもご提案いただいておりますので、早急に庁内で協議をいたしまして、さらに内容を充実させていきたいと思っております。

それからJRの駅名につきましては、ご提案いただいたような看板での表記等が可能かどうか、またJRとも協議をさせていただきたいと思っております。以上です。

#### ○議長 磯永優二君

鈴木議員。

#### ○4番 鈴木正博君

そういうことで、できる、できないは、して可能かどうかをやはり調べてもらって、できないものはしょうがないんですけども、もしかしたらどこかに、そういうチャンスがあるんじゃないかと思っております。

それから市内にケーキ屋さんとか、お菓子屋さん、それとかみやこハムとかあります。そういう問題で新しい品物が出来上がったりします。そういうところで、豊前市が豊前を売り出すために、その商店と一緒にあって、さっき言いましたとおり、豊前市としてこれを売りだしたら良いというようなことを、豊前市でそれを審査と言いますか精査して、そういう仕組みを作って、若干の宣伝のため、お金を交付するとかという、そういうシステムも必要じゃないかと思っております。

それはそれとして、次に、豊前市のPR。豊前市民の愛着を深めるために、ご当地ナンバーの提案をしたいと思っております。ご存じかと思っておりますけども、全国で数は少ないんですけども徐々に増えておるんですけども、原付ナンバーの125CC以下、90CC、50CC、それから小型特殊ですか、これははっきり言って、市町村の裁量で形状や図柄を決めることができると聞いております。

1つは私どもが乗っている普通車とか、そういうナンバーについては、道路運送法車両法で決められていて、それは法的に非常に難しい面があります。ですから、その件については、はっきり言って10万台以上の使用があるかどうかというような話しの中で、許可するかどうかは決められてくると思うんですけども、先程言いました125CC以下の分については、市町村で裁量が決められるようでございます。

そういうことでオリジナルナンバーを作って、はっきり言って来年60周年ということですので、60周年の記念事業として、それをしたらどうかと思っております。それは、すれば新聞にも扱われるし、テレビにもたぶん出ると思っております。金額もそう掛らないと思

うんですけれども、そういうことをしたらどうかということで、ご質問をします。

**○議長 磯永優二君**

税務課長、答弁。

**○税務課長 福丸和弘君**

鈴木議員のご質問ですが、原付バイクにご当地プレートを導入してはどうかというご質問ですが、ご当地プレートとは、市町村ごとにユニークな図柄等を採用した原付バイクの標識のことで、鈴木議員がおっしゃいましたように市町村の裁量で図柄等を決めることができるようになっています。

日本経済研究所の調査によりますと、平成26年3月現在、全国で287の自治体で導入しておりまして、福岡県内では5つの自治体で導入しています。導入の効果といたしましては、まちへの愛着が深まることや、市外で走ることでまちの豊前市のPRがなされること等が考えられます。60周年記念事業として、ご当地プレートを導入してはどうかということですが、製作費も掛ることでございますので、今後研究していきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

時間もありませんので、私のほうから、いろいろ発案をしていきたいと思います。税務課では、本年度200枚近くのナンバーを発注しながら、それぞれ個人の要求に基づいて交付していると思うんですけれども、その金額については1枚135円でございます。実際にご当地ナンバーですと、その2、3倍のお金が掛るそうでございます。しかし200枚だけだったら、500円掛かろうと大したお金じゃないかと思えます。

それから豊前市内、50CC以下であれば1500台、それから90CC以下、150台、それから125CC以下、130台くらいの見当じゃないかと思えます。そういう意味で言えば全部作っても、そう大した金額じゃないかと思えます。それは60周年事業で行う金額としては大した金額ではないと考えられます。

それと一遍にする必要がないので、市がいま発行している200枚か、それにプラスαで交付することで非常に安いお金で、はっきり言って市長さん、交付に当たっての、要するに新聞にパチッと撮られるとか、それとかテレビに出るということになれば、多大な広告になるわけですね。例えば、最近やりました大分の宇佐市ですね。インターネットでもしておりましたけど、募集して募集者に最初に渡すとか、それとかところによっては1月4日の年賀状の発送のときに、郵便局にまず第1号を渡しながらするとかですね、いろんな手があると思います。そういう意味で言えば安いお金で結局、宣伝できるわけでありませう。そういう意味で言えば、費用対効果、それから60周年の関係で言えば、非常に良い



事業になるかと思えます。それから話題性を呼ぶし豊前市内でも、あっ、これがご当地ナンバーかというようなことになるかと思うので、是非考えてやっていただきたいと思えます。これについては、返答は要りません。

次に、豊前市の基幹産業の1つ第1次産業、特に農業の将来について質問します。豊前市では、2013年3月に第5次豊前市総合計画を策定しました。第1章で豊前市の将来像を、豊かな海と山、歴史と暮らしを人がつなぐ安心文化のまち、ぶぜん、と定義しまして、第2章の施策の大綱では、美しい自然環境の保全、農林水産業の活性化を、前期計画の重点事業では、農業生産基盤整備の推進がうたわれているところでございます。

そこで農業を取り巻く環境保全について、お聞きします。

民主党政権時代から行われ、自民政権で名称変更を組み替えされた多面的機能支払交付金制度は、地域の住民の皆さんが市と共同で行う事業としては、非常に良い事業かと思われれます。高齢化を迎えた農業集落で進めるべき制度、事業かと考えております。

そこで担当課の事業への考え方と事業の進展を、お伺いしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 中川裕次君**

多面的機能直接支払制度について、考え方等を答えさせていただきます。

議員おっしゃるとおり、農業者が高齢化していております。また農業収益の低下等もありまして、後継者等が不足しているような状況でございます。このような状況の中の耕作放棄地とか何も作っていない遊休農地が、なかなか減っていかないという状況であります。

農林水産課、農業委員会ともに、担い手農家への農地集積等で、農家数等の減少を埋めていこうという努力をしているわけですが、またそれが逆に農家数の減少につながっていると。その結果、ため池とか水路とかの除草や泥上げ作業、また農道等の維持管理活動ができない地域が増えていっていると。苦情や相談件数も減ってないという状況でございます。そのような状況の中で、これまでの農地・水保全管理活動にあっては、農業者だけでなく集落ぐるみで活動するということが義務付けられておりました。

その結果、いろいろそういった農地や農業施設の維持管理活動のほかにも様々な取り組みを取り組まなければいけない。またその結果を報告しなければいけないという、非常に事務的にも高齢化していく集落の中では難しい状況がございました。今回その辺の制度が大きく見直しをされて、農業者だけで先程あった農地とか農道、農業用施設の維持管理活動だけでも支払いができますよという制度に改めて切り替えがされたところでございます。

農林水産課でJAまたは農業委員会、また県の機関と連携して、農事組合長さんを中心に普及をさせていただいて、地区の区長さん、また農業委員さん、農業者の皆さんに説明会を行いながら、この制度の普及と定着を図っていくべく、現在努力しているところでござ

ざいます。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4番 鈴木正博君**

言われるように、非常に豊前の将来的な田園環境が非常に心配されます。高齢化を伴っておるわけでございますから、その高齢化をした中での田園の環境整備というのは、非常に難しいところがあります。そういう意味で補助金がありますから、補助金を利用しながら、今後一層の普及と言いますか、良い方向で推進をお願いしたいと思います。

それから豊前市は、平成22年に農業従事者の65歳以上が65%以上になり、高齢化が深刻になっております。問題を解決するには、農業を取り巻く環境整備を早急に行う必要があります。環境整備と言いましても、先程出ました井堰、ため池等の保全整備、それから農道、水路の整備を推進しながら農用地の効果的利用についてをしていかなければならないと思います。先の議会で計画箇所、地域が示され若干の協議をされました。

その後、福岡県と協議がなされるように聞いております。そういう意味でどのようにその後進展しているか。もし豊前市内、上から下まで高齢化が進んでおりますから、その辺の計画があると思います。実際に今どこどこかというようなことは、ちょっと言えないと思うんですけど、計画箇所数とか、それから何年間でどうしたいというようなことが分かれば、公表できれば、その辺の公表をお願いしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 中川裕次君**

耕作条件等が悪い、ほ場整備事業等を実施してない地域を中心として、現在、県営の集落基盤整備事業を推進しているところでございます。この基盤整備事業のことだろうというふうに思いますので、事業について若干、内容の説明をさせていただきたいと思います。

この集落基盤整備事業は、現在、担い手に農地を集積したいというふうに考えても、やはり機械等が入らない、また機械を運搬するためのトラック等がなかなか進入できないと、また基幹的な水路が非常に老朽化して、井堰等から水揚げ等もままならないと、そういった地域を整備していこうという計画で、現在、豊前市内で基幹的な農道を7路線、基幹的用排水路7箇所、集落道1箇所、あと安全のために防火水槽を3箇所の整備計画を立てて事業認可を受けたところでございます。今後、県営事業として進めていきます。

その一番最初の段階として、そういった箇所の関係者の皆さんと事業実施についての協議を行いたいというふうに考えております。現在その協議を行うための地区推進協議会の設立に向け、福岡県の行橋農林事務所の担当課とともに、いろいろ準備中という段階でございます。今後、年内には協議会を立ち上げて、今後の事業の推進について関係者の皆さま

んから、いろんな意見をいただいていこうというふうに考えております。

また今後のスケジュールということですが、そういった調整をできるだけ早く進め、早期に着手を図っていきたいというふうに考えております。また事業年度ごとには、地区の説明会等を実施いたしまして、測量、設計、必要に応じて用地買収、また工事施工を実施していききたいと。着手につきましては、平成27年から平成30年度までの事業として、平成30年度末に完了を目指しているところでございます。

○議長 磯永優二君

鈴木議員。

○4番 鈴木正博君

農業者を取り巻く環境は厳しいものがあります。計画どおりに早くいってもらいたいと思います。昨日、一昨日の一般質問にも、農業委員会からの報告がっております。毎年109件、15haの放棄地が解消されています。これは農業委員会が進めている農地バンク、私は農地バンクと言うんですけど、実際に農業委員会はそうは言いませんけども、農地バンクに似たような感じで田んぼを出す所と、それから受け手がそこにあるものを勝手に見て決めていくようなことになるんで、バンクと言えるかどうか分かりませんが、それで随分進んでいるようでございます。しかしながら毎年15ha近くの放棄地が増えて、昨日の農業委員会の回答にありましてとおり、80haは変わらないわけですね。毎年、毎年80haの放棄地がありますというようなことで回答があったと記憶しております。

市長にお聞きします。水路や道路の整備なくして、農業者の安心・安全はありません。1日も早い事業の推進をよろしくお願いします。その辺の回答をお願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

耕作放棄地80ha余りと続いている状況でございます。これを何とかすることが、やはり我々の大きなテーマでございますし、これを何とか解決し少しでも食料生産、農業生産に対するチャンスを与える。そしてまた放棄地として地域に迷惑を掛けない対策だと認識しております。いま課長から申し上げましたように、県営の集落基盤整備、これには7路線、農道と水路とその他でございますので、これをまずやり上げて、そこからしっかり耕作放棄地を除去できるように取り組んでいきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

鈴木議員。

○4番 鈴木正博君

是非、市長にはよろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、農業問題 2 点目は、後継者の問題について、お聞きします。

農業を取り巻く環境は、先程言いましたとおり、高齢化になりまして担い手不足ということで、非常に難しい時代に入っております。それからコメの値段ですね。豊前市の主品目のコメ、夢つくしは本年度ある情報では、1 万 2 5 0 0 円前後での取引きが予想されると言われております。

毎年、毎年コメの値段が下落しております。そういう意味で言えば、農業収益の低下と高齢化により、豊前市では農業後継者の問題は将来的には厳しいものがあります。

そこで行政が全農地を責任もって耕作するくらいの考え方ですね、別にそれは考え方で、するというわけではございませんけども、豊前市の農村は崩壊します。

そこで豊前市が進める認定農業者育成確保についての現状をお聞きしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 中川裕次君**

農業、農地の担い手となっただいただいている認定農業者の現状でございますが、今現在、4 6 経営体でございます。この 5 年間で 6 経営体が増加している状況でございます。

今後とも人・農地プラン等に位置付けられた規模拡大農家の皆さん等を中心にですね、認定農業者になれるように、確保育成に努めていきたいというふうを考えております。

**○議長 磯永優二君**

鈴木議員。

**○4 番 鈴木正博君**

次に、福岡県が進める福岡県農業振興推進機構が設置されました。農地中間管理機構の進展をお聞きしたいと思います。今年度でございますから、実際には受付が始まって終わった段階ではないかと思うんで、ただどれだけの量があったのかということをお聞きしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 中川裕次君**

農地の有効利用の継続や農業経営の効率化を進めていく目的で、担い手農家への農地利用の集積、集約化を進めるため、都道府県に 1 つ農地中間管理機構が設立されております。先程言われました、いわゆる農地バンクと呼ばれるものでございます。

福岡県のほうで今年度に入って、いろいろ事業管理規則等が出されて、6 月 1 日から 6 月 3 0 日までの間に、今年 1 1 月 1 日の利用権設定分の募集を行うとともに、借受人の希望者の募集を行ったところでございます。借受人希望者のほうは、認定農業者を中心に 9 名希望があったわけですが、出し手のほうについては、市報等またはいろいろな会議等で

ご案内をしたんですが、残念ながらゼロ件という状況でございました。

○議長 磯永優二君

鈴木議員。

○4番 鈴木正博君

その件につきまして、農業者にいろいろお話を聞く機会がありまして聞いたんですけども、非常に良いところ取りじゃないんですけども、道路があるとか水便が良いとか、そういう面で早く言えば、ほ場整備したところなら良いよ、みたいなところで、とられるんじゃないかということで、難しい所は非常に難しいんじゃないかということと、それから条件について、いま契約と言いますか、農業委員会で、いま簡単に小作の契約ができるようでございますが、そういうのをしているのは駄目だというような要件があるかと思えます。

そういう意味で、非常にそれは使いにくいみたいな感じで受け取られております。私もそういう具合に感じました。私が思うには、先程言いました、いま簡単なことで農業委員会で受付で貸し手と言いますか、そういう人が書いて、それも公表して家も土地も個人の名前も公表して良いということで書いて、そしてそれを借り手が見て、それでお互いに契約を交わしながらということで、先程、私が言いましたけど、農地バンクではありませんけれども、私自身はそれを発展させれば、農地バンクみたいになるんじゃないかと思うような気がします。

そういう意味で言えば行政がその辺をうまく使いながら、是非、進展させなければ、はっきり言って1件、1件で例えれば、その1件、1件が将来ですね、自分が死んだ後、自分の農地はどうなるんやろうかと言いながら、出来なくなって死んでいって、1件だけだったら1件だけの話なんですけども、それが集落的に多ければ多いほど、特に三毛門、それから宇島地区は、ほ場整備しておりません。そういう意味で言えばそういう所は荒廃した土地になるんじゃないかと思えます。

そういう意味で言えば、先程、県の事業の推進ですね。県の事業というのは、それに付帯した事業はしてくれないと思うんで、その辺を例えば、それに付いた市道。市道と言っても農道みたいな感じですけど、それを建設課のほうでお互いに話し合っ、ちょっとの距離なら、ちょっと市道ですからしまししょうかというようなことでやっていくとか、機転のきいたことでやっていただかないと、県ばっかしに任せただけでは、なかなかうまくいかないんじゃないかと思えます。

後継者の問題ですね、先程言いましたとおり農業委員も頑張ってくれている農業委員もおります。そういう意味で言えば、農業委員会で農業委員を総動員したような形で考えていただきたいと思えます。それはもうはっきり言って20年、30年後には、私は百姓をしています、私も含めて出来ない、跡取りがいないというような農業者が多いわけです。そういう意味で、地域の環境を守るためには、そういうところをうまくやらないといけな

いと思います。それから上のほうも、ほ場整備をしている所も、はっきり言って後継者の問題で悩んでいる所もあります。そういうことで市のほうとして、全体でどういうことで維持していくか。はっきり言って全部が全部作るのが一番良いわけですが、そうはいかないかもしれません。ですけれども、それは悪くなると市のイメージが非常に、今度の総合計画であまりないんですけど、前の総合計画では田園都市ということであってあります。そういう意味で景観の良い豊前市として残すためには、いま市が手を差し伸べてやっていかないと待ったなしだと思います。

そういうことで市長、一言ご回答をお願いしたいと思います。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

今るる述べていただきました荒廃した農地、そして担い手がこれから後継者を含めて、非常に危機感のある、そういう農業・農村地帯の豊前の一部でございますが、危機感というのを抱いていらっしゃるものが伝わってくるものがあり、共有するところであります。

ここをきめ細かく、さらに現実として使える農地に戻すというのは、先程も申し上げましたが、我々にとっても大きな課題でございます。三毛門、宇島地区にかなりのそういう所がございまして、景観をも壊している環境をも壊している、環境悪化につながるのではないかという懸念もございます。そういったところを、これから私たちも地域の皆さんと知恵を絞りながら、行政としてしっかり取り組んでいきたいと思っております。

地域のご協力、また議員の皆さんのご支援をよろしくお願いしたいと思います。以上でございます。

○議長 磯永優二君

鈴木議員。

○4番 鈴木正博君

以上で、私の質問を終わりたいと思います。

○議長 磯永優二君

鈴木正博議員の質問が終わりました。

以上で、豊明会の一般質問を終わります。

これより、本日の一般質問に関連する関連質問に入ります。関連質問はありませんか。

(「なし」の声あり)

これをもって関連質問を終わります。

それでは、日程第2 議案に対する質疑及び議案の委員会付託を行います。

質疑の通告はありませんので、これをもって質疑を終わります。

只今、議案となっております各議案につきましては、お手元に配付の議案付託表のとおり、

それぞれの所管委員会に付託いたします。

日程第3 意見書案第4号を議題といたします。

はじめに、提出議員であります鎌田晃二議員に提案理由の説明を求めます。

鎌田議員。

#### ○6番 鎌田晃二君

それでは、提案理由の説明をしたいと思います。昨今、合法ハーブ等と称して販売される薬物を吸引し、呼吸困難を起こしたり、死亡したりする事件が全国で相次いで発生しています。特に、その使用によって幻覚や興奮作用を引き起こしたことが原因とみられる、重大な交通事故の事案が度々報道されるなど深刻な社会問題となっています。

危険ドラッグは合法と称していても、規制薬物と似た成分が含まれているなど、大麻や覚せい剤と同様に人体への使用により危険が発生する恐れがあり、好奇心などから安易に購入したり使用したりすることへの危険性が強く指摘されています。

指定薬物への認定には、数ヵ月を要し、その間に規制を免れるために、化学構造の一部を変えた新種の薬物が出回ることにより、取り締まる側と製造販売する側でイタチごっことなっています。また危険ドラッグの鑑定には、簡易検査方法がないため、捜査に時間が掛ることも課題とされています。そこで、政府におかれては危険ドラッグの根絶に向けた総合的な対策を強化することを強く求めたいと思います。

以上が提案理由であります。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

#### ○議長 磯永優二君

提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。質疑はありますか。

(「なし」の声あり)

これをもって質疑を終わります。

只今、議題となっております意見書案第4号は、文教厚生委員会に付託いたします。

日程第4 請願第1号から請願第3号までを議題といたします。

はじめに請願第1号について、紹介議員であります榎本義憲議員より提案理由の説明をお願いいたします。

#### ○8番 榎本義憲君

それでは農業、農協改革に関する意見書の提出に関する請願の提案理由の説明をさせていただきます。

政府が、本年6月に閣議決定した規制改革実施計画、及び政府が改定した農林水産業、地域の活力創生プランでは、これ前と同じ農業、農村全体の所得を、今後10年間で倍増させることを目指すという目標を掲げ、新たに農協、農業生産法人、農業委員会の改革推進が盛り込まれました。豊前市の農業振興においては、豊前市とJAが連携し、水田農業

をはじめとする農業政策の推進、担い手の育成、管内農産物ブランド作り等の対応を行っています。しかしながら、今後の政府の取り組み如何では、JAの機能が低下し、豊前市の農業振興に大きな影響が懸念され、ひいては農家の所得減少につながると考えられます。このような事態を招かないためにも、政府に対して農業、農協改革について、慎重な審議を行うよう国へ意見書の提出をお願いするものであります。

慎重に審議していただき、ご承認をいただきますよう、お願い申し上げます。

#### ○議長 磯永優二君

次に、請願第2号について、紹介議員であります安江千賀夫議員より提案理由の説明を求めます。

#### ○3番 安江千賀夫君

少人数学級の推進と、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る制限について、趣旨の説明をいたします。少人数学級の推進に関しましては、現に豊前市におきましても、多人数学級の問題を抱えているクラスが小学校で1クラス、中学校で2クラスございます。一人ひとりの子どもに丁寧な目配りの出来る学級づくりのために必要だと考えます。

また義務教育費、国庫負担の問題に関しましては、今年度のOECDの調査でも、日本はGDPに占める教育機関への公的支出は3.6%であり、OECD加盟34カ国中、5年連続して最下位という極めて残念な現状にございます。

子ども達への投資は、まさに国の未来を切り開く原動力でございます。30人以下学級の実現と国庫負担割合2分の1への復元の請願につきまして、議員各位の皆様のご審議をよろしくお願いいたしまして終わります。

#### ○議長 磯永優二君

最後に請願第3号について、紹介議員であります黒江哲文議員より提案理由の説明を求めます。

#### ○4番 鈴木正博君

それでは手話言語法の制定を求める意見書の提出に関する請願について、請願趣旨の説明をいたします。

長い間、聴覚障害者は、聞こえないのに音声言語である日本語でのコミュニケーションを余儀なくされ、多数者である健常者の社会から疎外され不利益を受けてきました。

平成23年に障害者基本法が改正され、手話は言語であることが明らかにされ、手話での意思疎通及び情報の取得、利用が聴覚障害者の権利として認められました。その上で障害者基本法第22条で国及び地方公共団体は、情報の利用におけるバリアフリー化等に関する施策を講じるよう努めなければならないとされています。

これを実現するには、手話の獲得、取得、及び使用に関する必要事項を定め、手話に関



するあらゆる施策の総合かつ計画的な推進を図ることを目的とした法律の制定が必要となっています。1日も早く手話言語法が制定されるよう、国等への意見書の提出を請願するものであります。議員の皆様方にご審議のほどをお願いいたしまして提案理由の説明を終わります。

**○議長 磯永優二君**

1号から3号までの請願の提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

爪丸議員。

**○11番 爪丸裕和君**

請願第3号を質問いたします。この請願事項の中に4項目ありまして、この4項目を順序を追いまして、まず1項目目ですが、JAに対して強制的な組織変更というようなことを書かれておりますが、組織の変更を強制するものなのかどうか。

**○議長 磯永優二君**

それは請願1号じゃないですか。

**○11番 爪丸裕和君**

すみません、訂正させてください。請願第1号です。訂正をお願いします。

続けます。2項目目ですが、準組合員への事業利用を制限するというような、これをまた協同組合への強制強化と、これはどういったものなのか。

3点目につきましては、これは強制的に株式会社化させるというようなことを書かれていますが、これは現行を強制的に今の組合組織を解体させ、株式化を促すものであるのか。

最後に4点目につきましては、これは農業委員会の改革及び農業生産法人の要件の見直しと書かれておりますが、この具体性について質問いたします。

**○議長 磯永優二君**

只今、爪丸議員より質疑がありましたので、説明者の榎本議員、質疑の説明はできませんでしょうか。榎本議員。

**○8番 榎本義憲君**

今ご質問いただいた件は、JAに対して強制的な組織変更、あるいは準組合員の事業を制限する、そしてまた協同組合組織ではなく、株式会社化を、そして農業委員会の改革及び農業生産法人の要件の見直しの件についてのご質問だというふうに受け止めます。

まとめてお答えしたいと思います。JA、全国農業組合の組織変更を次期国会等で審議する予定になってはいますが、まだ政府と全国農業協同組合との協議が整っておらず、一方的に株式化等に変更することには問題があると考えます。農業協同組合は、株式会社のように利潤を追求する団体ではなく、その運営は農業組合法で制限、保護され正組合員である農家、利用目的に応じた準組合員等の出資で運営されています。

農家の所得控除、営農、生活指導、経営安定等の指導、支援を農協は目指しており、農家減少を食い止め、準組合員の利用拡大を図ることが本来の目的であると考えます。協同組合の組織は重要であるというふうに考えます。また農業委員会の改革は、公選制から専任制への変更であり、これについても問題点があるというふうに考えます。

また農業生産法人の要件の見直しは、農家以外の議決権を現行の25%以下から50%未満まで引き上げ、農業従事者を1名以上にと変更するものであり、その運営についても農業が心配される。以上でございます。

○議長 磯永優二君

爪丸議員。

○11番 爪丸裕和君

良く分かりました。終わります。

○議長 磯永優二君

ほかにありませんか。

(「なし」の声あり)

ないようにありますので、これをもって質疑を終わります。

只今、議題となっております請願につきましては、請願第1号は産業建設委員会に、第2号及び3号は文教厚生委員会に付託いたします。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。よって、本日は、これにて散会いたします。皆さん、お疲れでした。

散会 14時23分